

和歌山県立近代美術館年報

二〇一〇(平成22)年度





## 刊行にあたって

2010(平成22)年度の年報を刊行いたします。

2010年11月、和歌山県立近代美術館は開館40周年を迎えました。当館は、1963(昭和38)年に和歌山城二の丸跡に開館した和歌山県立美術館を前身として、1970(昭和45)年、近代美術を標榜するわが国5番目の美術館として県民文化会館1階に開館しました。23年間の活動を続けたあと、1994(平成6)年7月、現在の場所に新築移転しました。

開館以来、当館は和歌山県にゆかりのある作家について調査と紹介を続ける一方、「和歌山版画ビエンナーレ」や「関西の美術家シリーズ」など独自の展覧会を通じて、県民の皆さんに親しまれ、また日本国内はもとより海外に向けて、個性的な文化の発信地としての役割を果たしてまいりました。

このような従来からの実績の上に立ち、近代美術の展示と収集の活動にとどまらず、今日の多様化する表現に対応し、幅広い美術の紹介に積極的に取り組んでいます。また、展覧会活動と収集活動に並行して教育普及活動も活発に展開しています。

2010(平成22)年度、当館は開館40周年を記念して各分野で多彩な事業を展開しました。ここではその一部をご紹介させていただきます。

まず企画展としては、地道に形成してきた当館独自のコレクションを活用して、春から夏にかけて「ようこそ彫刻の森へ」、秋に「日本近代の青春 創作版画の名品」、そして冬には「油彩の魅力 イズムを超えて」を開催し、さらに次年度にまたがって和歌山出身の清水武次郎(1915-1993)の独創的な贊美版による作品を中心に、「版画の『アナ』 ガリ版がつなぐ孔版画の歴史」と題する当館ならではのユニークな展覧会を開催しました。

また、当館の名誉館長であった平山郁夫氏(1930-2009)の追悼展示を行い、あわせて平山夫人のいとこにあたる日本画家、小沢道治氏(1915-2000)の初の回顧展を開催して、教職のかたわら故郷の九度山町で制作に打ち込んだ氏の真摯で清澄な芸術を紹介しました。

収集活動は順調に進展していますが、ここで特筆すべきは、「美術館にアートを贈る会」による募金活動が目標を達成して、栗田宏一《ソイルライブラリー/和歌山》[2007(平成19)年制作]が当館に寄贈されたことです。この活動にご協力くださいました多くの皆様に心からお礼を申しあげます。

教育普及活動では、小中学校や和歌山大学との連携から多大の成果を得ています。その他、NPO和歌山芸術文化支援協会との連携事業も活発に展開いたしました。

年度末の3月11日に発生した東日本大震災はわれわれに、美術館の使命とは何かという問いを鋭く突きつけています。われわれは当館が広く県民ならびに美術愛好家の方々と日々ともに呼吸し、心の拠り所となる美術館でありたいと願っています。当館の活動は、ご来館くださる方々をはじめ、多くの皆様のご支援とご協力によって成り立っています。ここに心から感謝申し上げるとともに、その成果をご報告し、さらに充実した美術館活動を進める基礎とするため、本年報を刊行いたします。

2012(平成24)年3月

和歌山県立近代美術館  
館長 雪山 行二

## 目次

刊行にあたって	1
沿革	2
展覧会事業	6
特別事業	47
普及事業	50
協力事業	54
作品貸付	55
調査・研究・発表活動および対外協力活動	57
収集事業	58
保存事業	67
管理運営	68
関連法規	70
建築概要	75
案内	77

# 沿革

## ■和歌山県立美術館

1963(昭和38)年  
3月17日 旧和歌山城二の丸跡に開館  
7月 川口軌外展  
10月 第1回明治・大正・昭和名作美術展  
11月 第17回和歌山県美術展(1969年第23回展まで開催)

1964(昭和39)年  
4月 紀州陶磁器展  
10月 第2回明治・大正・昭和名作美術展

1965(昭和40)年  
3月 楓園南海展  
5月 長沢蘆雪名作展  
7月 日高昌克展  
10月 近代洋画名作展 特設・原勝四郎遺作展

1966(昭和41)年  
3月 ダリ・シャガール・ビュッフェ版画展  
6月 石垣栄太郎遺作展  
6月 日本伝統工芸秀作展  
7月 川端龍子展  
10月 松方コレクション展

1967(昭和42)年  
10月 富岡鉄斎展

1968(昭和43)年  
3月 桑山玉洲展  
9月 扇絵展  
10月 明治100年記念郷土作家回顧展

1969(昭和44)年  
4月 保田龍門展

1970(昭和45)年  
11月2日 廃館

## ■和歌山県立近代美術館

1970(昭和45)年  
11月2日 和歌山県民文化会館内に開館  
第24回和歌山県美術展(1993年第47回展まで開催)

1971(昭和46)年  
3月 大夢・晩花展  
8月 紀州の風景画展

1972(昭和47)年  
3月 原勝四郎展  
10月 アメリカにおける日本人作家回顧展  
—石垣栄太郎・国吉康雄・ヘンリー・杉本

1973(昭和48)年  
10月 川口軌外展

1974(昭和49)年  
4月 吉田政次遺作展  
10月 稲伊之助展

1975(昭和50)年  
10月 木下孝則回顧展

1976(昭和51)年  
2月 1910年代における京都日本画の新動向展  
10月 木下義謙作品展

1977(昭和52)年  
2月 田中恭吉展  
10月 川端龍子展

1978(昭和53)年  
10月 日高昌克展

1979(昭和54)年  
2月 神中糸子と工部美術学校展  
5月 村井正誠展  
10月 高井貞二展

1980(昭和55)年  
3月 川口軌外とその周辺  
—和歌山の初期独立展系作家たち—展  
10月 開館10周年記念 1930年協会の作家たち展

1981(昭和56)年  
3月 恩地孝四郎・田中恭吉・逸見享版画展  
10月 下村觀山—その人と芸術—

1982(昭和57)年  
2月 建畠覚造展  
7月 イタリア美術の一世纪《1880-1990》展  
10月 稗田一穂展

1983(昭和58)年  
7月 関西の美術家シリーズ1  
—津高和一・泉茂・吉原英雄展

1984(昭和59)年  
2月 和歌山の作家と県内洋画壇展  
7月 関西の美術家シリーズ2—元永定正・白髮一雄展  
10月 紀州の風景を描いた作家たち展

1985(昭和60)年  
3月 第1回和歌山版画ビエンナーレ展  
7月 関西の美術家シリーズ3 彫刻の4人  
—清水九兵衛・山口牧生・森口宏一・福岡道雄展  
10月 開館15周年記念 近代洋画の展開  
—初期独立美術協会の作家たち展

1986(昭和61)年  
7月 朝井闘右衛門の世界  
10月 瑛九とその周辺展

1987(昭和62)年  
3月 第2回和歌山版画ビエンナーレ展  
7月 関西の美術家シリーズ4 日本画の4人  
—大野徹嵩・下村良之介・星野真吾・三上誠展

1988(昭和63)年  
9月 太平洋を越えた日本の画家たち展

1989(昭和64・平成元)年  
3月 描かれた動物たち展  
7月 関西の美術家シリーズ5 版画の4人

—井田照一・木村光佑・黒崎彰・船井裕展  
10月 竹久夢二とその周辺展

1989(昭和64・平成元)年  
3月 第3回和歌山版画ビエンナーレ展  
7月 関西の美術家シリーズ6 現代の造形  
—土と布と糸。荒木高子・前川強・濱谷明夫展  
10月 親と子で見る世界の名画展

1990(平成2)年  
7月 関西の美術家シリーズ7 美術の現在  
—4つの試み 宮崎豊治・北山善夫・木村秀樹・野田裕示展  
10月 現代の陶芸1980-1990 関西の作家を中心として

1991(平成3)年  
3月 第4回和歌山版画ビエンナーレ展  
7月 関西の美術家シリーズ8 美術の現在  
—彫刻の変容 小清水漸・北辻良央・川島慶樹展  
9月 ポスター芸術100年

1992(平成3)年  
10月 版画芸術の饗宴  
—ケネス・タイラーと巨匠たち：1963-1992

1993(平成4)年  
3月 第5回和歌山版画ビエンナーレ展

《煉瓦の壁ぞいに歩く男》(1988)を購入  
10月 施設着工式を挙行

11月 和歌山県美術品取得基金によりマーク・ロスコ  
《赤の上の黄褐色と黒》(1957)を購入

1992(平成4)年  
8月 和歌山県美術品取得基金によりフランク・ステラ  
《ラッカIII》(1968)を購入

1993(平成5)年  
9月 和歌山県美術品取得基金によりパブロ・ピカソ  
《ミノトーロマシー》(1935)、《泣く女》(1937)を購入

1994(平成6)年  
2月 定礎式を挙行  
3月 工事完了  
4月 新美術館へ移転

**■和歌山県立近代美術館 新館**

7月8日 新近代美術館開館  
開館記念展1 美術館へ行こう

10月 開館記念展2 大正のまなざし  
—若き保田龍門とその時代—

11月 ルオーの「ミゼレーレ」

1995(平成7)年  
1月 恩地孝四郎—色と形の詩人—  
2月 和歌山ゆかりの作家たち  
4月 1994年度新収蔵作品展  
4月 ヴィクトリア&アルバート美術館展  
—イギリス絵画の350年  
7月 村井正誠展 色とかたちと心—人間の詩—  
8月 美術館に行ったよ！—風景ってなあに—  
9月 保田春彦展  
10月 野田裕示近作展

1996(平成8)年  
1月 線画の世界—かたりの表現—  
2月 ひかる・うごく・おとがする  
4月 「絵画」というしくみ  
6月 紀伊半島を歩いて  
—ロジャー・アックリング&ハミッシュ・フルトン  
8月 モスクワ、ブーシキン美術館名作展—室内への視線—  
9月 ホックニーのグリム童話  
11月 日本のグラフィックデザイン

1997(平成9)年  
1月 和歌山の版画家10人  
3月 新しい関西の美術家たち ものとあらわれ  
4月 美術館へ行ったよ！ コレクションに見る東京  
5月 美術館へ行ったよ！ コレクションに見るパリ  
7月 アルザスとフランス近代美術の歩み  
—ストラスブール近代美術館展  
8月 版画の技法・表現の手法

10月 マリノ・マリーニ展  
 11月 アメリカの中の日本—石垣栄太郎と戦前の渡米画家たち  
 1998(平成10)年  
 1月 心のかたち  
 2月 泉茂 初期版画作品を中心に  
 4月 世纪末の華 オーブリー・ピアズリー展  
 5月 日本の近代版画 コレクション・ダイジェスト1  
 6月 日本の近代版画 コレクション・ダイジェスト2  
 8月 静けさの中から 星の贈りもの  
 9月 和歌山の日本画 コレクション・ダイジェスト3  
 10月 意味とイメージ  
 12月 フランス現代美術展 眼と精神  
 1999(平成11)年  
 2月 関西の戦後美術 1950's~1990's  
 4月 めいさく根掘葉掘 アートと知り合い!  
 6月 デモクラート1951-1957  
 7月 日本の近代版画 コレクション・ダイジェスト4  
 8月 熊野の音+熊野の色 増田感・北堅吉彦展  
 9月 サンフランシスコ近代美術館展  
 11月 川口軌外展 ある洋画家の軌跡  
 12月 越境する想像力 素材との出会い  
 2000(平成12)年  
 2月 コレクションにみる芸術と社会  
 4月 田中恭吉展  
 5月 定規とコンパス?幾何学图形と美術の表現  
 7月 印象派の巨匠 シスレー展  
 —イル・ド・フランスの光を愛して  
 9月 東欧絵本の世界展—国境を越える子どものためのアート  
 11月 現代版画の軌跡 ゆめとめざめ  
 12月 日本の近代版画4 コレクション・ダイジェスト  
 2001(平成13)年  
 2月 版画今昔  
 4月 夢の世界のおくりもの—アンデルセン童話・絵本原画展  
 5月 うごけば、かわる。  
 8月 宇佐美圭司・絵画宇宙  
 9月 浜口陽三へのオマージュ  
 10月 マックス・エルンスト展  
 12月 一期一会 であう めでる つたえる  
 —コレクションによる全館展示  
 2002(平成14)年  
 4月 あたらしい画面をもとめて 関西の半世紀  
 5月 「生活」を「芸術」として 西村伊作の世界  
 7月 アンジェ美術館展  
 9月 山本容子の美術遊園地  
 11月 美術百科 「この人のこの一点」の巻  
 —コレクションによる全館展示  
 2003(平成15)年  
 4月 はじめての美術・絵本原画の世界展  
 6月 チャペック兄弟とチェコ・アヴァンギャルド展

7月 近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展  
 9月 たがやすように 熟す画面の4つのかたち展  
 12月 美術百科「七つの鍵」の巻  
 —コレクションによる全館展示  
 2004(平成16)年  
 4月 和歌山県特別事業 日本に向かられたヨーロッパ人の  
 眼・ジャパントウディ vol.6  
 atW vol.1 永坂嘉光・鈴木理策 高野\_熊野\_聖地  
 6月 小野竹喬展  
 7月 ピノッキオ その誕生から現代まで展  
 11月 チャールズ&レイ・イームズ 創造の遺産展  
 2005(平成17)年  
 1月 開館10周年記念 美術百科「版画」の巻  
 —コレクションによる全館展示  
 4月 没後10年 遺業・泉茂展  
 6月 世界の版画名品選展  
 7月 夏休み わかやま美術探偵団展  
 関連企画 鈴木昭男 点音 in 和歌山  
 9月 版画家たちの表情  
 11月 佐伯祐三—芸術家への道—  
 2006(平成18)年  
 1月 美術百科「世界一周」の巻  
 —コレクションによる全館展示  
 4月 ベトナム近代絵画展 花と銃  
 —インドシナ・モダンの半世紀  
 6月 現代「日本画」の展望—内と外のあいだで—  
 9月 森鷗外と美術  
 11月 科学の感情—あたらしい時代の感覚と表現—  
 2007(平成19)年  
 1月 美術百科「前衛の関西」の巻  
 —コレクションによる全館展示  
 4月 竹久夢二展—描くことが生きること—  
 大正デカダンス「夢二」+「テルオ・バンカ」  
 6月 ふだん美術  
 うるわしき技の世界 近現代美術の達人たち  
 7月 relations 関係 FUJIMOTO and  
 relations 関係 happy conceptual—杉山知子+藤本由  
 紀夫  
 10月 森のなかで  
 12月 美術百科「色・いろいろ」の巻  
 —コレクションによる全館展示  
 2008(平成20)年  
 4月 叙情の様式  
 6月 共作×共鳴×共感—ともに作られた作品たち  
 7月 ルオーの〈ミセレーレ〉—人間へのまなざし—  
 9月 点と面の詩情—上原智祐・中山嘉一・坪田政彦展  
 11月 彼岸の美術  
 12月 美術百科「この人はだれ」の巻  
 —コレクションによる全館展示

2009(平成21)年  
 4月 原勝四郎展  
 4月 アメリカをめぐって  
 6月 油絵の理由  
 —「あぶらえ」は好きですか?  
 7月 生誕100年記念 浜口陽三展  
 サマー・ミュージアム—わかやま発見—  
 自宅から美術館へ 田中恒子コレクション展  
 コレクション名品展  
 11月 世界遺産登録5周年記念  
 描かれた紀伊山地の霊場と参詣道  
 12月 美術百科「ここはどこ」の巻  
 —コレクションによる全館展示

## 2010(平成22)年度 展覧会一覧

### 1. 企画展

-1. 開館40周年記念展 I ようこそ彫刻の森へ	7
4月25日(日)～9月5日(日)	
-2. 開館40周年記念展 II 日本近代の青春 創作版画の名品	10
9月18日(土)～10月24日(日)	
-3. 開館40周年記念展 III 油絵の魅力 イズムを超えて	19
2011(平成23)年1月4日(火)～2月13日(日)	
-4. 版画の「アナ」 ガリ版がつなぐ孔版画の歴史	22
2011(平成23)年3月19日(土)～3月31日(木) [4月17日(日)]	
2. 常設展	29
-1. コレクション展 2010－春	29
4月29日(木・祝)～7月4日(日)	
-2. 宇佐美圭司展－絵画の歩み	32
4月29日(木・祝)～7月4日(日)	
-3. コレクション展 2010－夏秋	33
7月17日(土)～10月3日(日)	
-4. 大亦新治郎のスケッチから－明治・大正の和歌山のまち	35
7月17日(土)～10月3日(日)	
-5. コレクション展 2010－秋冬	37
10月23日(土)～2011(平成23)年1月30日(日)	
-6. 保田春彦展 近作デッサンを中心に	40
10月23日(土)～2011(平成23)年1月30日(日)	
-7. コレクション展 2011－春	43
3月19日(土)～3月31日(木) [6月12日(日)]	
-8. 吉田政次の世界展	45
3月19日(土)～3月31日(木) [6月12日(日)]	

### 1-1. 開館40周年記念展 I ようこそ彫刻の森へ

会期：4月25日(日)～9月5日(日)  
 会場：展示室C(2階)  
 主催：和歌山県立近代美術館  
 内容：本県ゆかりの彫刻家、建畠大夢と覚造、保田龍門と春彦の二組の父子の作品は、当館コレクションのひとつの軸となっている。これらの作品にロダン、ブルーデル、マイヨールや、戦後の多様な素材による作品によって、彫刻の魅力を紹介した。  
 担当学芸員：寺口淳治  
 関連事業：  
     ・フロアレクチャー 5月3日(月・祝)、5日(水・祝) 寺口淳治  
     ・ワークショップ「もっと、光を」講師：佐藤時啓(東京藝術大学教授) 7月24日(土)、25日(日)  
     主催：ドキドキ少年撮影隊ミュージアム編 NPO法人和歌山芸術文化支援協会  
 印刷物：出品目録(A4判6頁)  
 入場料金：一般500円(400円)、大学生300円(250円) ( )内は20名以上の団体料金  
     高校生以下、県内留学生・就学生、65歳以上、障害者の方は入場料金無料  
 成果：収蔵品の魅力を伝えるために企画したものであるが、個人所蔵家の協力によって20点の作品を加えることができ、より幅広く近代の彫刻を紹介するとともに、今日彫刻の概念が大きく変わっていることを示すことができた。  
 関連記事：  
     ・「県立近代美術館 開館40周年記念展『ようこそ 彫刻の森へ』」『有田タイムス』2010年4月7日、2面  
     ・「ようこそ 彫刻の森へ 和歌山県立近代美術館 開館40周年記念展 4月25日(日)～9月5日(日)」『南紀州新聞』2010年4月24日、5面  
     ・「ようこそ 彫刻の森へ 近代美術館開館40周年 25日から記念展第1部」『わかやま新報』2010年4月25日、6面  
     ・「ようこそ 彫刻の森へ」ガイド『産経新聞』2010年5月7日、6面  
     ・「角度変えて楽しんで 近代美術館40周年記念 彫刻の森フロアレクチャー」『わかやま新報』2010年5月9日、6面  
     ・「和歌山県立近代美術館開館40周年記念展 I ようこそ 彫刻の森へ」『NATTS』116、2010年6月、p.13  
     ・「ミュージアムガイド 和歌山県立近代美術館 企画展 開館40周年記念展『ようこそ 彫刻の森へ』」『紀州浪漫』33、2010年6月1日、p.18  
     ・「和歌山県立近代美術館 ようこそ 彫刻の森へ」『全国主要美術館スケジュール』6・7月号、2010年6月1日発行、p.4  
     ・「和歌山県立近代美術館」『gallery guide book』256(関西・中部・四国・中国版)、2010年6月1日発行、p.2  
     ・「こどもと一緒に 和歌山県立近代美術館 ようこそ 彫刻の森へ」A+I美術館・博物館『朝日新聞』2010年6月2日夕刊、7面  
     ・「開館40周年記念展 I ようこそ 彫刻の森へ」展覧会ピックアップ『びあ関西版』698、2010年6月3日発行、p.92  
     ・「ようこそ 彫刻の森へ」かんさい展覧会・イベント情報『関西版STERA NHKウイークリーステラ』6月11日号、p.66  
     ・「9月5日まで 県立近代美術館 開館40周年記念展 I 「ようこそ 彫刻の森へ」」『黒潮タイムス』2010年6月25日、2面  
     ・「和歌山県立近代美術館 企画展 開館40周年記念展 I 「ようこそ 彫刻の森へ」」『WACA-P』32、2010年7月発行、p.8  
     ・江上ゆか「空間に響き合う多彩な声 ようこそ 彫刻の森へ(和歌山県立近代美術館)」『毎日新聞』2010年7月14日夕刊、7面  
     ・「開館40周年記念展 I ようこそ 彫刻の森へ」『ニュース和歌山増刊+Plus』2010年8月6日、3面  
     ・「和歌山県立近代美術館 開館40周年記念展 I ようこそ 彫刻の森へ」『タベルとアソブ』3、2010年8月、p.11





## 1-2. 開館40周年記念展 II 日本近代の青春 創作版画の名品

会期：9月18日(土)～10月24日(日)  
会場：展示室C(2階)  
主催：和歌山県立近代美術館  
共催：宇都宮美術館、財団法人NHKサービスセンター  
協力：高知県立紙産業技術センター  
助成：財団法人 花王芸術・科学財団  
内容：国内でも有数の規模と質を誇る当館の創作版画コレクションを中心に、貴重な個人コレ

クションもまじえ、明治期から昭和戦前期にいたる創作版画の名品、375点を紹介した。  
担当学芸員：井上芳子、寺口淳治

関連事業：  
・ジャズ・ライブ「川嶋哲郎～生命を刻む！」テナーサックス・フルート：川嶋哲郎、  
ベース：時安吉宏、コーディネート：恩地元子、9月23日(木・祝)  
・講演会「創作版画の表現と手法」横山勝彦(長野県信濃美術館 副館長)10月10日(日)  
・フロアレクチャー 9月19日(日)、10月3日(日) 井上芳子

印刷物：  
・ポスター(B2判)  
・チラシ(B5判)  
・図録(A5判変型 320頁)

雪山行二「創作版画によせて」  
寺口淳治「つなぐひとー恩地孝四郎についての覚書ー」  
カタログ

井上芳子「『月映』の周辺 象徴主義をめぐって」

伊藤伸子「東京美術学校校友会版画部 1928-1933」

坂本雅美「近代日本における版画の紙」

三木哲夫編「日本創作版画運動」関連年表 1904-1945

寺口淳治編「作家解説」

出品目録

巡回展：宇都宮美術館 11月21日(日)～2011(平成23)年1月10日(月・祝)

入场料金：一般500円(400円)、大学生300円(250円) ( )内は20名以上の団体料金

高校生以下、県内留学生・就学生、65歳以上、障害者の方は入场料金無料

成果：当館所蔵品の特色を活かし、創作版画の歴史的名品を丹念に紹介した。財団法人 花王芸術・科学財団の助成を得られ、また宇都宮美術館が共催に加わったことにより、出品候補作品約600点について大がかりな調査を行い、図録を制作することができた。調査には坂本雅美氏(紙本保存修復家)、大川昭典氏(元 高知県立紙産業技術センター技術部長)、有吉正明氏(高知県立紙産業技術センター 製紙技術課)の協力を得た。その結果は図録で坂本氏の論考「近代日本における版画の紙」としてまとめられた。また、大学版画学会にはたらきかけ、京都市立芸術大学、大阪芸術大学の版画科の授業として鑑賞の機会が作られた。

関連記事：  
・「創作版画の名品一堂に 開館40周年記念展II 講演会やライブも 近代美術館 9月18日～10月24日」『わかやま新報』2010年8月29日、7面

・「展覧会プレビュー 日本近代の青春 創作版画の名品」「版画芸術」39-2、2010年9月1日発行、p.140

・「日本近代の青春創作版画の名品」きのくにガイド『朝日新聞』2010年9月9日、22面

・「日本近代の青春 創作版画の名品」かんさい展覧会・イベント情報『関西版STERA NHKウィークリーステラ』9・10、2010年9月10日発行、p.66

・「版画とスイング 美術館でジャズ 和歌山で100人」『朝日新聞』2010年9月25日、30面

・「注目の展覧会 和歌山県立近代美術館 開館40周年記念展II 日本近代版画の青春 創作版画の名品」「電車&ウォーク」2010年9月号、p.5

・「開館40周年記念展II 日本近代版画の青春 創作版画の名品」ミュージアムガイド『紀州浪漫』2010秋号Vol.34、p.19



ポスター



日本近代の青春  
創作版画の名品



日本近代の青春  
創作版画の名品



日本近代の青春  
創作版画の名品

ちらし

図録

- ・和歌山県立近代美術館 開館40周年記念展II 日本近代版画の青春 創作版画の名品 カルチャーインフォメーション『Waca-p和歌山県文化情報誌ワカピー』33、2010年9・10月、p.8
- ・和歌山県立近代美術館 開館40周年記念展II 日本近代版画の青春 創作版画の名品『NATTS』120、2010年10月、p.17
- ・美術館へ行こう。』『Sou!』13、2010年10月、pp.6-8
- ・和歌山県立近代美術館 開館40周年記念展II 日本近代版画の青春 創作版画の名品「10月24日(日)まで」『ニュース和歌山増刊+Plus』2010年10月1日、3面
- ・和歌山県立近代美術館 版画がいっぱいの展覧会へおいでよ！』『わかやま探検ミュージアム』1、2010年10月1日、p.6
- ・「美術評「創作版画の名品」展 摺るぎない地位 磔あってこそ」「朝日新聞」夕刊、2010年10月1日、5面
- ・「地域イベントカレンダー 開館40周年記念展II 日本近代版画の青春 創作版画の名品」『タベルとアソブ』5、2010年10月、p.11
- ・「創作版画」に情熱を傾けて 歴史に残る名品が400点 近代美術館で24日まで』『わかやま新報』2010年10月20日、3面

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
1	「刀画」の誕生・『方寸』の周辺	漁夫〔『明星』辰戸第7号 挿画〕	1904(明治37)年7月1日	木版、紙	16.3×11.1	
2	山本 鼎	漁夫〔『明星』辰戸第7号 挿画〕	1904(明治37)年5月29日	木版、紙(冊子)	14.6×14.8×1.8	
3	藤島武二(画)、伊上純蔵(刻)	與謝野鶴幹、與謝野晶子『雪草』	1905(明治38)年7月4日	小口木版、紙(冊子)	12.2×8.3	個人蔵
4	青木 篤(画)、山本 鼎(刻)	鍋杵〔瀬原有明『春鳥集』 口絵〕	1907(明治40)年6月15日	冊子	31.5×23.2×0.1	個人蔵
5	『方寸』1-2	-1森田恒友 表紙：采芹〔凸版、写真版、手彩色、紙〕、-2石井柏亭 插画：道哲〔エッチング、紙〕				
6		-3森田恒友 插画：草花〔石版、手彩色、紙〕				
7		森田恒友 『方寸』1-3 閉録	1907(明治40)年7月20日	石版、紙(冊子)	31.0×23.1×0.2	個人蔵
8		森田恒友 『方寸』1-5 插画刷	1907(明治40)年10月23日	石版、紙(冊子)	31.1×22.8×0.1	個人蔵
9		森田恒友 『方寸』1-6	1907(明治40)年11月13日	冊子	8.3×13.7	
10		-1森田恒友 附録：【無題】〔エッチング、紙〕、-2山本 鼎 挿画：製版便〔シンク凸版、紙〕				
11		山本 鼎 〔猿〕『方寸』2-1 表紙	1908(明治41)年1月13日	木版(機械刷り)、紙(冊子)	31.2×23.2×0.2	個人蔵
12		山本 鼎 海を渡る蝶『方寸』2-3 插画	1908(明治41)年4月5日	石版、紙(冊子)	31.3×23.0×0.2	個人蔵
13		山本 鼎 競馬『方寸』2-4 插画	1908(明治41)年5月20日	シンク版、紙、冊子	31.4×23.1×0.1	
14		山本 鼎 ごがらし『方寸』3-1 插画	1909(明治42)年1月1日	シンク版、木版(機械刷り)、紙(冊子)	31.2×23.4×0.2	個人蔵
15		山本 鼎 SIBAI NO UMA『方寸』特別漫画号 表紙	1909(明治42)年2月18日	石版、紙(冊子)	30.1×22.9×0.1	個人蔵
16		山本 鼎 『方寸』3-3	1909(明治42)年3月28日発行	冊子	30.4×23.5×0.2	和歌山県立近代美術館、個人蔵
17		-1山本 鼎 表紙：麗日〔木版(機械刷り)、紙〕、-2石井柏亭 插絵：〔青木〕〔石版、紙〕	1909(明治42)年5月20日発行	冊子	31.4×23.4×0.1	和歌山県立近代美術館、個人蔵
18		-1山本 鼎 表紙：鬼萬〔木版(機械刷り)、紙〕、-2石井柏亭 插絵：真登〔木版、紙〕	1909(明治42)年8月5日	冊子	31.2×23.3×0.1	和歌山県立近代美術館、個人蔵
19		-1山本 鼎 表紙：櫻水夫〔木版(機械刷り)、シンク版、紙〕、-2石井柏亭 插絵：サイダア〔石版、紙〕	1909(明治42)年11月10日	冊子	30.8×22.8×0.2	
20		-1山本 鼎 表紙：薄暮〔木版(機械刷り)、シンク版、紙〕、-2石井柏亭 插絵：雪解『方寸』5-1 表紙	1910(明治43)年1月10日	木版(機械刷り)、紙(冊子)	14.8×7.7×0.2	個人蔵
21		-1山本 鼎 表紙：信濃より〔石版、紙〕、-2山本 鼎、フリツ・ルンプ、石井柏亭 插画〔石版、紙〕	1910(明治43)年5月10日	木版(機械刷り)、紙(冊子)	31.0×22.9×0.2	個人蔵
22		山本 鼎 留作〔赤き唇の少女〕『方寸』4-6 表紙	1910(明治43)年8月10日	写真版、冊子	31.1×22.7×0.1	
23		山本 鼎 女『方寸』4-8 表紙	1910(明治43)年12月10日	写真版、木版(機械刷り)、紙(冊子)	30.5×22.5×0.2	個人蔵
24		山本 鼎 雪解『方寸』5-1 表紙	1911(明治44)年1月10日	木版(機械刷り)、紙(冊子)	30.6×22.5×0.1	
		石井柏亭(画)・山本 鼎(刻)	1911(明治44)年11月25日再版(1909年3月15日初版)	木口木版、紙(冊子)	14.8×7.7、冊子：19.0×14.0×2.0	個人蔵







No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
10	新版画集団・造型版画協会の人々	「SHINHANGA 創刊号 版画は大衆のものだ」ポスター	1932(昭和7)	木版、紙	33.3×24.2	
315	作者不詳	「新版画集団小品展」ポスター	1934(昭和9)	木版、紙	43.9×31.9	
316	小野忠重	「新版画集団第2回展」ポスター	1933(昭和8)	木版、紙	54.2×26.6	
317	藤牧義夫	「東京風景版画展」ポスター	1934(昭和9)	木版、紙	54.3×23.8	
318	藤牧義夫	「新版画第2回展」ポスター	1933(昭和8)	木版、紙	33.2×24.2	
319	水船六洲	「新版画第3回展」ポスター	1933(昭和8)	合羽版、木版、紙	46.0×33.8	
320	水船六洲	死を回る人々	1933(昭和8)	木版、手彩色、紙	49.0×62.2	
321	小野忠重	工場街	1935(昭和10)	木版、紙	48.5×48.5	
323	小野忠重	清水正博 ヴァリエテ(サーカス)	1933(昭和8)	木版、紙	58.7×48.5	
324	清水正博	都会風景	1933(昭和8)	木版、紙	33.2×25.0	
325	清水正博	酒場	1933(昭和8)	木版、紙	32.5×45.4	
326	清水正博	巡航船	1934(昭和9)	木版、紙	48.7×38.3	
327	芝秀夫	少女	不詳	木版、紙	33.3×25.2	
328	芝秀夫	青年	1932(昭和7)	木版、紙	43.1×37.7	
329	芝秀夫	眠ってる男	1933(昭和8)	木版、紙	15.9×32.9	
330	鈴木健夫	中華街裏通り	1934(昭和9)	石膏版、紙	13.2×17.9	
331	鈴木健夫	機関車スケッチ	1932(昭和7)	木版、紙	17.9×24.0	
332	鈴木健夫	蒼生苦	1937(昭和12)	木版、紙	30.1×49.3	
333	大久保一	〔風影〕	1933(昭和8)	木版、紙	13.0×17.5	
334	大久保一	ジプシイの母子	1933(昭和8)	木版、紙	25.3×21.5	
335	大久保一	蒙古人の想	1933(昭和8)	木版、紙	26.5×23.8	
336~338	武藤六郎	『武藤六郎版画集 第1輯』 336 たとう(41.3×32.1×0.3)、337 夜の日本橋(23.5×32.4)、338 東京駅(23.0×32.1)	1933(昭和8)年6月	木版、紙	41.3×32.1×0.3	
339	水船六洲	裸婦	1939(昭和14)	木版、紙	28.0×19.8	
340	蓬田兵衛門	〔風景〕	不詳	木版、紙	20.4×30.3	
341	佐伯留夫	プロフィール	1932(昭和7)頃	木版、紙	12.2×8.8	
342	佐伯留夫	〔婦人像〕	不詳	木版、紙	30.2×20.6	
343	武山由平	病院	不詳	木版、紙	18.0×24.2	
344	畠野織藏	晩秋	不詳	木版、紙	31.6×39.8	
345	吉原正道	兵士	1933(昭和8)	木版、紙	32.8×24.1	
346	吉山正三	鐘紡裏	1932(昭和7)	木版、紙	22.1×29.2	
347	菊地善二郎	〔山馬〕	不詳	木版、紙	15.0×21.9	
348	江端芳市	椅子の少女	1937(昭和12)頃	木版、紙	34.2×24.0	
349	江端芳市	傷痕軍人と看護婦	1938(昭和13)	木版、手彩色、紙	35.5×49.9	
350	谷口薫美	鉄橋	不詳	木版、紙	17.9×26.8	
351	宇治山晋平	段々畑と無花果	1936(昭和11)	木版、紙	24.3×31.8	
352	杉本義夫	海女	1932(昭和7)	木版、紙	25.2×32.5	
353	新田耕	卓上静物	1944(昭和19)	木版、紙	24.8×33.8	
354	伊藤健乃典	〔黒い風景〕	不詳	木版、紙	23.3×29.9	
355	伊藤健乃典	光芒	1941(昭和16)	木版、紙	32.3×38.8	
356	藤牧義夫	『新版画』4表紙 『新版画』4表紙	1932(昭和7)年9月15日	木版、紙(冊子)	29.6×22.5×0.5	
357	芝秀夫	『新版画』7表紙 『新版画』7表紙	1933(昭和8)年1月1日	木版、紙(冊子)	29.4×22.3×0.3	
358	藤牧義夫	鐵の橋『新版画』10 露地『新版画』11	1933(昭和8)年10月1日 1933(昭和8)年12月25日	木版(機械刷り)、手彩色、紙(冊子)	14.7×16.9 10.8×8.7	
359	小野忠重	つき『新版画』12	1934(昭和9)年4月10日	木版、紙(冊子)	12.9×12.4	
360	藤牧義夫	『新版画』13表紙	1934(昭和9)年7月20日	木版、紙(冊子)	31.8×23.6×0.4	
361	吉田正三	『版画小品』 『版画小品』	1933(昭和8)	冊子	21.2×17.8×0.4	
362	清水正博	-1 表紙 [木版ラベル貼付(5.3×4.7)]、-2 マッチペーパー 3種 [木版、紙(5.1×3.8、5.0×3.5、4.8×6.5)]				



### 1-3. 開館40周年記念展 III 油絵の魅力 イズムを超えて

会期：平成23年1月4日(火)～2月13日(日)

会場：展示室C(2階)

会主催：和歌山県立近代美術館

内容：明治時代以降、独自の展開をとげてきた日本の油絵の歴史と魅力を、当館のコレクションに和歌山大学や個人所蔵の作品を合わせ紹介した。

担当学芸員：宮本久宣

関連事業：・講演会「油絵の歴史と魅力 和歌山大学のふたつの作品から」

講師：高橋健一(和歌山大学教育学部准教授) 1月23日(日)

・フロアレクチャー 1月10日(月・祝)、2月11日(金・祝) 宮本久宣

印刷物：・ポスター(B2判)

・チラシ(A4判)

・案内はがき

・出品目録(A4判6頁)

入場料金：一般500円(400円)、大学生300円(250円) ( )内は20名以上の団体料金

高校生以下、県内留学生・就学生、65歳以上、障害者の方は入場料金無料

成果：日本の油絵の歴史を通史的に紹介する展示は初めてであった。アンケートでは、内容について分かりやすいという声が多く、描く作品に短い解説を付けたことが好評だった。同時に当館の油絵コレクションの魅力も再発信することができたと考えられる。開催にあたっては和歌山大学と連携をはかり、同学が所蔵する美術作品の調査を行った上で、児島虎次郎、津田青楓の作品2点を学外で初公開することができた。

関連記事：・「油絵の魅力」1月4日～近代美術館 開館40周年記念展III『わかやま新報』2010年12月22日、6面

・「開館40周年記念展III 油絵の魅力 イズムを超えて」地域イベントカレンダー『タベルとアソブ』8、2010年12月31日、p.11

・「県立近代美術館開館40周年記念展III 1/4～「油絵の魅力 イズムを超えて」」『有田タイムス』2011年1月1日、8面

・「岸田劉生、佐伯祐三、松本俊介らの作品を通して油絵の歴史と魅力を紹介 和歌山県立近代美術館 開館40周年記念展III 油絵の魅力 イズムを超えて」『NATTS』123、2011年1月、p.13

・「和歌山県立近代美術館 開館40周年記念展III 油絵の魅力 イズムを超えて」カルチャーアンフォーメーション『WACA-P』35、2011年1月、P.8

・「和歌山県立近代美術館 油絵の魅力 イズムを超えて」A+I 美術館・博物館『朝日新聞』2011年1月5日夕刊、5面

・「「油絵の魅力」テーマに企画展」イベントカレンダー1月8日～16日『ニュースと和歌山』2011年1月8日、4面

・「開館40周年記念展III 油絵の魅力 イズムを超えて 日本人の感性が磨いた」『わかやま新報』2011年1月8日、6面

・「油絵に宿る日本の心 県立近代美術館、80点展示」『読売新聞』2011年1月13日、30面

・「和歌山県立近代美術館 油絵の魅力 イズムを超えて」A+I 美術館・博物館『朝日新聞』2011年1月19日夕刊、3面

・「油絵の歴史と魅力 近代美術館の記念展で講演」『わかやま新報』2011年1月27日、6面

・「WAKAYAMA “Attraction of Oil Paintings: Beyond Isms”」『THE JAPAN TIMES』2011年1月28日、14面

・「注目の展覧会 和歌山県立近代美術館 開館40周年記念展III 油絵の魅力 イズムを超えて」『電車&ウォーキング』2011年1月号、p.5

・「和歌山県立近代美術館 40周年記念展覧会で、油絵の魅力に触れよう!!」『Sou!』17、2011年2月、p.54

・「和歌山県立近代美術館 日本人が描いた油絵の名品を紹介します。」『わかやま探検ミュージアム』3、2011年2月1日、p.4

・「40周年記念展「油絵の魅力 イズムを超えて」県立近代美術館」『黒潮タイムス』2011年2月5日、2面

・「日本の油絵辿る展覧会 県立近代美術館」『産経新聞』2011年2月9日、20面

・「和歌山県立近代美術館 油絵の魅力 イズムを超えて」A+I 美術館・博物館『朝日新聞』2011年2月9日夕刊、5面



油絵の魅力 イズムを超えて



## 1-4. 版画の「アナ」 ガリ版がつなぐ孔版画の歴史

会期：平成23年3月19日(土)～3月31日(水) [4月17日(日)]

会場：展示室C(2階)

主催：和歌山県立近代美術館

内容：本県出身の清水武次郎(1915-1993)の独創的な謄写版による作品を中心に、現代版画の主要な技法の一つとなったシルクスクリーンに到る多彩な孔版画の歴史を作品と資料によって辿る。

担当学芸員：植野比佐見

関連事業：フロアレクチャー 3月21日(月・祝) [4月3日(日)] 植野比佐見

印刷物：・ポスター(B2判)

・チラシ(A4判)

・案内はがき

・出品目録(A4判12頁)

入場料金：一般500円(400円)、大学生300円(250円) ( )内は20名以上の団体料金

高校生以下、県内留学生・就学生、65歳以上、障害者の方は入場料金無料

成果：ステンシルから現代のシルクスクリーンにいたる孔版画の歴史を作品と資料によって

はじめて紹介することができた。先行展もなく、手探りで調査を進めたが、資料の発見など成果は大きく、観客の関心も高かった。

とくに謄写版画については、その創造的な侧面も高度に洗練されていた技術的な侧面も、同時代でさえ充分に認知されておらず、現代においてはますます新鮮な驚きをもたらすものであり、より深く研究し、紹介すべきジャンルであることが明確になった。

関連記事：・「和歌山県立近代美術館『版画の「アナ」—ガリ版がつなぐ孔版画の歴史』」ミュージアムガイド『紀州浪漫』2011.VOL.3 春号2011年3月1日発行、p.19

・「和歌山県立近代美術館『版画の「アナ」—ガリ版がつなぐ孔版画の歴史』」カルチャーインフォメーション『WACA-P』36、2011年3月、P.8

・「和歌山県立近代美術館 版画の「アナ」—ガリ版がつなぐ孔版画の歴史」ART『NATTS』125、2011年3月、p.13

・「版画の「アナ」ガリ版がつなぐ孔版画の歴史 紀陽文化財団」Close Up『リビング和歌山』2011年3月5日、4面

・「和歌山県立近代美術館 小学校の先生が版画家になったよ。」「わかやま探検ミュージアム」4、2011年4月1日、p.6

・「孔版画200点展示 県立近代美術館で19日から」『産経新聞』2011年3月5日、25面

・「ガリ版はどうやって? 近代美術館で「版画の「アナ」」「わかやま新報」2011年3月29日、5面

・「和歌山県立近代美術館 版画の「アナ」ガリ版がつなぐ孔版画の歴史」A+I 美術館・博物館『朝日新聞』2011年3月30日夕刊、5面

・「注目の展覧会 和歌山県立近代美術館 版画の「アナ」ガリ版がつなぐ孔版画の歴史」「電車&ウォーク」2011年3月、p.5

・「版画の「アナ」ガリ版がつなぐ孔版画の歴史」ART『Sou!』19、2011年4月、p.49

・「版画の「アナ」~ガリ版がつなぐ孔版画の歴史」地域イベントカレンダー『タベルとアソブ』II、2011年3月31日、p.11

・「業界の動き 和歌山で謄写印刷展示会」「グラフィックサービス」714、2011年5月、pp.28-29

・楠本公子「はじめての和歌山ー『版画の「アナ」ガリ版がつなぐ孔版画の歴史』を見る」、勝又直樹「清水武次郎ー蒼い残像に思うこと」、志村章子「孔版画の可能性ー和歌山の『版画の「アナ」』展をみるー」「新ガリ版ネットワーク通信」33、2011年6月15日



ちらし

D M

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
1	清水 武次郎	[少女]	1948(昭和23)	謄写版、紙	19.5×26.5	
2	清水 武次郎	仏頭	1948(昭和23)	謄写版、紙	37.9×27.2	
3	清水 武次郎	ひまわり	1948(昭和23)	謄写版、紙	34.7×23.2	
4	清水 武次郎	ひまわり	1951(昭和26)	謄写版、紙	37.8×25.7	
5	清水 武次郎	[南瓜]	1948(昭和23)頃	謄写版、紙	24.6×27.3	
6	清水 武次郎	[少年]	1950(昭和25)頃	謄写版、紙	41.0×55.3	
7	清水 武次郎	廢屋	1950(昭和25)頃	謄写版、紙	32.2×42.3	
8	清水 武次郎	作品 1	1956(昭和31)	謄写版、紙	36.9×51.2	
9	清水 武次郎	夜	1957(昭和32)	謄写版、紙	27.5×42.0	
10	清水 武次郎	夜の静物	1957(昭和32)	謄写版、紙	27.5×42.1	
11	清水 武次郎	夜の壺	1957(昭和32)	謄写版、紙	27.2×42.0	
12	清水 武次郎	[小品]	1980年代	和紙孔版、紙	20.0×18.2	
13	清水 武次郎	[廢屋]	1948(昭和23)頃	謄写版、紙	27.4×15.4	
14	清水 武次郎	[滞船]	1948(昭和23)頃	謄写版、紙	20.4×28.5	
15	清水 武次郎	[作品]	1958(昭和33)	謄写版、紙	42.6×28.3	
16	清水 武次郎	牧歌	1958(昭和33)	謄写版、紙	39.7×54.7	
17	清水 武次郎	考える鳥	1959(昭和34)頃	謄写版、紙	42.8×28.3	
18	清水 武次郎	埋もれた壺	1959(昭和34)頃	謄写版、紙	42.0×27.5	
19	清水 武次郎	五月の詩	1959(昭和34)	謄写版、紙	42.7×28.2	
20	清水 武次郎	白い花	1960(昭和35)	謄写版、紙	42.2×28.0	
21	清水 武次郎	[作品]	1962(昭和37)	和紙孔版、紙	42.2×28.2	
22	清水 武次郎	曲	1963(昭和38)	和紙孔版、紙	28.5×42.7	
23	清水 武次郎	作品 1	1963(昭和38)	和紙孔版、紙	52.0×38.4	
24	清水 武次郎	[作品]	1964(昭和39)	和紙孔版、紙	34.1×47.6	
25	清水 武次郎	石人	1963(昭和38)	和紙孔版、紙	51.5×37.5	
26	清水 武次郎	作品 3	1960(昭和35)	和紙孔版、紙	27.5×42.2	
27	清水 武次郎	黒い実	1964(昭和39)	謄写版、紙	28.7×43.0	
28	清水 武次郎	[作品]	1960年代	和紙孔版、謄写版、紙	42.2×27.5	
29	清水 武次郎	海のうた	1965(昭和40)頃	和紙孔版、謄写版、紙	28.5×43.2	
30	清水 武次郎	[作品]	1965(昭和40)	和紙孔版、紙	39.5×53.2	
31	清水 武次郎	[作品]	1967(昭和42)	和紙孔版、紙	39.4×53.2	
32	清水 武次郎	[作品]	1960年代	和紙孔版、紙	50.8×37.6	
33	清水 武次郎	不毛	1967(昭和42)	和紙孔版、紙	49.6×35.4	
34	清水 武次郎	象 I	1970(昭和45)	和紙孔版、紙	53.0×39.4	
35	清水 武次郎	象 II	1970(昭和45)	和紙孔版、紙	53.0×39.4	
36	清水 武次郎	[作品]	1975(昭和50)頃	和紙孔版、紙	53.1×39.5	
37	清水 武次郎	[作品]	1970年代前半	和紙孔版、紙	53.0×39.5	
38	清水 武次郎	紀の川改修場にて	1973(昭和48)	和紙孔版、紙	39.4×53.2	
39	清水 武次郎	[作品]	1970年代前半	和紙孔版、謄写版、紙	53.2×39.4	
40	清水 武次郎	[作品]	1970年代前半	和紙孔版、謄写版、紙	53.2×39.5	
41	清水 武次郎	[作品]	1970年代前半	和紙孔版、謄写版、紙	53.2×39.5	
42	清水 武次郎	つぼなど	1972(昭和47)	和紙孔版、謄写版、紙	28.2×42.5	
43	清水 武次郎	[作品]	1977(昭和52)	和紙孔版、紙	55.2×39.6	
44	清水 武次郎	[作品]	1970年代後半	和紙孔版、紙	53.2×37.0	
45	清水 武次郎	[作品]	1980年代	和紙孔版、紙	54.7×39.5	
46	清水 武次郎	[作品]	1983(昭和58)	和紙孔版、紙	39.8×55.0	
47	清水 武次郎	[作品]	1980(昭和55)	和紙孔版、紙	79.0×54.8	
48	清水 武次郎	レインボー No.3	1981(昭和56)	和紙孔版、紙	79.3×54.6	
49	清水 武次郎	作品	1982(昭和57)	和紙孔版、紙	79.2×54.8	
50	清水 武次郎	[作品]	1986(昭和61)	和紙孔版、紙	79.1×54.9	
51	清水 武次郎	[作品]	1986(昭和61)	和紙孔版、葉による版、紙	79.2×54.7	







No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
34	野長瀬 晚花	[初夏]	1912(明治45)	顔料、絹	110.2×41.8	
35	野長瀬 晚花	被布着たる少女	1911(明治44)	顔料、絹	114.1×134.8	
36	小野 竹喬	春浅き海辺	1918(大正7)	顔料、絹	30.0×43.0	
37	日高 昌克	春渓	1952(昭和27)	墨、紙	43.5×52.0	
38	日高 昌克	初夏峰嶽図	1953(昭和28)	墨、彩色、紙	51.6×31.0	個人蔵
39	日高 昌克	初夏峰嶽図	[1950年代]	墨、彩色、紙	58.1×30.7	
3	上前智祐の版画					
40	上前 智祐	作品	2004(平成16)	シルクスクリーン、紙	33.1×45.6	
41	上前 智祐	作品	2004(平成16)	シルクスクリーン、紙	33.0×45.4	
42	上前 智祐	作品	2001(平成13)	銅版、紙	52.2×36.2	
43	上前 智祐	作品 24	2001(平成13)	銅版、紙	52.0×36.2	
44	上前 智祐	作品 10	2001(平成13)	銅版、紙	60.5×41.2	
45	上前 智祐	作品	2002(平成14)	銅版、紙	60.9×41.1	
46	上前 智祐	作品	2002(平成14)	銅版、紙	79.3×54.4	
47	上前 智祐	作品	2002(平成14)	銅版、紙	79.0×54.3	
48	上前 智祐	作品	2002(平成14)	銅版、紙	71.5×52.8	
49	上前 智祐	作品	2003(平成15)	銅版、紙	72.0×53.0	
50	上前 智祐	作品	2002(平成14)	銅版、紙	72.0×53.0	
51	上前 智祐	作品	2002(平成14)	銅版、紙	36.0×51.0	
52	上前 智祐	作品	2002(平成14)	銅版、紙	36.2×51.2	
53	上前 智祐	作品	2006(平成18)	シルクスクリーン、紙	54.7×35.2	
54	上前 智祐	作品	2006(平成18)	シルクスクリーン、紙	54.6×35.1	
55	上前 智祐	作品	2007(平成19)	銅版、紙	74.5×64.3	
56	上前 智祐	作品	2007(平成19)	銅版、紙	74.5×64.0	
57	上前 智祐	作品	2007(平成19)	シルクスクリーン、紙	42.3×60.4	
58	上前 智祐	作品	2007(平成19)	シルクスクリーン、紙	42.3×60.3	
59	上前 智祐	作品	2007(平成19)	シルクスクリーン、紙	42.3×60.3	
60	上前 智祐	作品	2007(平成19)	シルクスクリーン、紙	42.2×60.3	
61	上前 智祐	作品	2007(平成19)	銅版、紙	60.0×49.6	
62	上前 智祐	作品	2007(平成19)	銅版、紙	60.0×49.7	
63	上前 智祐	作品	2007(平成19)	銅版、紙	60.1×49.4	
64	上前 智祐	作品	2007(平成19)	銅版、紙	60.0×49.6	
65	上前 智祐	作品	2007(平成19)	銅版、紙	60.0×49.9	
4	黒の表現ー人間と抽象					
66	ピカソ、パブロ	泣く女	1937(昭和12)	銅版、紙	72.3×49.3	
67	フォートリエ、ジャン	人質たちの習作	1942(昭和17)	銅版、紙	30.2×28.2	
68	フォートリエ、ジャン	黒い背景の人質たち	1944(昭和19)	銅版、紙	23.6×32.5	
69	フォートリエ、ジャン	銃殺された人々	1943(昭和18)	銅版、紙	34×27.1	
70	デュシャン、マルセル	プロフィールの自画像	1958(昭和33)	色紙、ベルベット	33.3×25.3	
71	ノイマン、マックス	無題	1988(昭和63)	ミクストメディア、キャンバス	300.0×200.4	
72	ニコルソン、ベン	袋小路	1968(昭和43)	銅版、紙	25.2×26.8	
73	ニコルソン、ベン	トルコ風の形	1967(昭和42)	銅版、紙	26.8×14.7	
74	ニコルソン、ベン	2つのトルコ風の形のあいだのトルコ風の日時計	1967(昭和42)	銅版、紙	34.5×25.2	
75	ロスコ、マーク	赤の上の黄褐色と黒	1957(昭和32)	油彩、キャンバス	176.2×136.6×3.8	
76	ステラ、フランク	タラデガ III(サーキット・シリーズ)	1982(昭和57)	銅版、紙	1168.2×131.2	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
5	展示室外の作品 ・エントランスホール周辺	ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎	1989(平成元)	ブロンズ	230.0×187.0×128.5	
6	フラナガン、バリー	病人を看護する	1963(昭和38)	ブロンズ	157.0×186.5×12.0	
7	グレコ、エミリオ	無題(私を覚えていて)	1988(昭和63)	シルクスクリーン、ビニール	378.7×268.1	
8	クルーガー、バー・バラ	ラッカ III	1968(昭和43)	アクリル、キャンバス	304.0×760.0	
9	ステラ、フランク	series "old melancholy" 「胡鶴」	1985(昭和60)	銅、はんだ	131.0×710.0×480.0	
10	池垣 タダヒコ	熊野-moegi(萌黄)	1999(平成11)	油彩、キャンバス	270.0×320.0×320.0(3点)	作者の厚意により保存
11	北堅 吉彦	ソイル・ライブライナー／和歌山	2007(平成19)	和歌山県内の土、ガラスビン	90.0×1260.0×32.0	個人蔵
12	栗田 宏一					
13	83					
14	階段通り場から2階ホワイエ	山並-senkoushu(鮮光朱)	1999(平成11)	油彩	170×1020	作者の厚意により保存
15	84	Corresponding Space I	1996(平成8)	アルミニウム	200×350×200	
16	屋外	着地	1969(昭和44)	ステンレススチール	250.0×1000.0×360.0	
17	86	T-9216	1992(平成4)	陶	216.0×246.0×179.0	
18	87	無題(タンゴ)	1985(昭和60)	陶	57.0×72.0×53.0	
19	88	金子 潤	1984(昭和59)	黒御影石、ベンガラ	180×76×51	
20	89	山口 牧生	1999(平成11)	銅、鉄	200.0×500.0×500.0	
21	90	かたむくかたち A	1982(昭和57)	ステンレススチール	270.0×170.0×75.0	
22	91	アシモトノセカイ	1994(平成6)	ステンレススチール	208.0×335.0×305.0	
23	92	MANJI	1994(平成6)	鉄	60.0×127.5×451.2	
24	93	球を覆う幕舎				
25	93	聚落を囲う壁				



## 2-2. 宇佐美圭司展—絵画の歩み

会期：4月29日(木・祝)～7月4日(日)  
 会場：展示室B(1階)  
 主催：和歌山県立近代美術館  
 内容：古希を迎える本県ゆかりの作家、宇佐美圭司を館蔵作品と受託作品により回顧形式で紹介した。作者が18歳で制作したデッサンから、華々しいデビューを飾った抽象的な作品、人型を用いた作品を経て、平成13年に当館で開催した個展「宇佐美圭司・絵画宇宙」に際して当館で公開制作された大作を初めて展示室で紹介した。

担当学芸員：奥村泰彦

関連事業：鑑賞ワークショップ「おとなとこどもで楽しむ一点」 5月5日(水・祝)

成果：展示室を大きく2つに区切ることで、抽象的な画面を追求した時期から、人体が主題として現れる以後の転換を印象的に示し、限られた点数ながら作家の制作の歩みを回顧する内容とすることことができた。

No.	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
1	還元 No.6	1963(昭和38)	油彩、キャンバス	135×184.8	
2	ヴィリジアン、群れをなして No.5	1960(昭和35)	油彩、キャンバス	183.5×233.5	個人蔵
3	燐光の No.5	1961(昭和36)	油彩、キャンバス	151×197.8	個人蔵
4	炎の舟 No.9	1962(昭和37)	油彩、キャンバス	134.8×184.8	個人蔵
5	初期デッサン [波切画帖] 16点	1958(昭和33)夏	水彩、インク、紙	各16.5×24.0／24.0×16.4	個人蔵
6	作品1964年6月5日	1964(昭和39)	油彩、キャンバス	171.8×220	個人蔵
7	目覚めのうずまくなかを No.4	1964(昭和39)	油彩、キャンバス	165.2×213	個人蔵
8	路上の英雄 No.2	1966(昭和41)	油彩、キャンバス	185×270	個人蔵
9	水族館の中の水族館 No.2	1967(昭和42)	油彩、キャンバス	185.2×276	
10	内側からそして外側から	1968(昭和43)	油彩、キャンバス	116.5×80.6	個人蔵
11	版画集「顔」 7点組	1973-74(昭和48-49)	シルクスクリーン、紙	67.0×52.0	
12	Wave Ring	1980(昭和55)	油彩、キャンバス	194.8×270	個人蔵
13	慶應義塾大学図書館ロビー壁画作品《やがて、すべてが一つの円の中に》のための1/9 カルトン 2 1982(昭和57) 水彩、紙	82.3×239.5			
14	Elevation(高翔)・イエロー	1997(平成9)	油彩、キャンバス	259.1×193.9	個人蔵
15	Elevation(高翔)・グリーン	1997(平成9)	油彩、キャンバス	259.1×193.9	個人蔵
16	山々は難破した船に似て No.2	2001(平成13)	油彩、キャンバス	290.9×436.4	個人蔵
17	ドローイング・山々は難破した船に似て No.2-1	2000(平成12)	水彩、顔料インク、紙	60.0×80.0	個人蔵



## 2-3. コレクション展 2010—夏秋

会期：7月17日(土)～10月3日(日)  
 会場：展示室A(1階)  
 催：和歌山県立近代美術館  
 内容：「大正初期の油彩表現—『月映』の作家を中心に」「アメリカの日本人画家たち」「フランスの風景—佐伯祐三を中心に+日本画」「○まるいかたち」「曰く言い難き…」「学校で習ったことがあるかも… 中学校美術科教科書副読本『美術資料・和歌山の美術』掲載作品から」のコーナーにより、コレクションを紹介した。

担当学芸員：奥村一郎

関連事業：・アーティストトーク 9月20日(月・祝) 湯川雅紀(作家)

・こどもギャラリートーク(展示解説) 8月15日(日)、18日(水)、22日(日)、25日(火)、28日(土) 奥村一郎

印刷物：出品目録(A4判8頁)、「大亦新治郎のスケッチから—明治・大正の和歌山のまち」展と共に

入場料金：一般340円(270円)、大学生230円(180円) ( )内は20名以上の団体料金

高校生以下、県内留学生・就学生、65歳以上、障害者の方は入場料金無料

「大亦新治郎のスケッチから—明治・大正の和歌山のまち」と共通

成果：それぞれ特色をもったコーナー構成によりコレクションの魅力を発信することができた。カタログなどの資料を置き、学習スペースとしての利用も可能にした、中学校美術科副読本掲載の当館所蔵作品特集コーナーは、夏休みに宿題での来館が多い中学生を主な対象としたが、一般来館者の利用も多かった。また、作品展示にあわせて開催した湯川雅紀氏のトークには50名の参加があり、好評を得た。

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
1 大正初期の油彩表現—『月映』の作家を中心に						
1	恩地 幸四郎	海の女	1912(大正元)	油彩、キャンバス	45.0×33.3	
2	田中 恭吉	ニコライ	1912(大正元)頃	油彩、板	22.0×15.5	
3	香山 小鳥	風景	1911(明治44)	油彩、板	22.7×14.6	
4	田中 恭吉	[バラの刺]	不詳	油彩、キャンバス	45.5×33.4	
5	藤森 静雄	花	1915(大正4)	油彩、キャンバス	33.0×24.0	
6	藤森 静雄	眠る少女	不詳	油彩、キャンバス	23.8×32.6	
7	田中 恭吉	伏したる女	1911(明治44)	油彩、キャンバス	33.5×45.6	
8	久本 信男	和服婦人	不詳	油彩、キャンバス	41.4×27.7	
9	田中 二朗	木立のある風景	不詳	油彩、板	23.7×33.0	
10	田中 二朗	コップのある静物	1910(明治43)	油彩、板	15.8×22.4	
11	寺中 美一	自画像	1916(大正5)	油彩、キャンバス	45.7×33.6	
12	保田 龍門	トルコ帽の自画像	1913-14(大正2-3)頃	油彩、キャンバス	45.6×38.6	
13	保田 龍門	自画像	1915(大正4)	油彩、キャンバス	60.9×50.2	
14	保田 龍門	コオニユリのある風景	1912(大正元)頃	油彩、キャンバス	38.2×46.0	
15	保田 龍門	少年	1912(大正元)	油彩、キャンバス	45.8×60.6	
16	高須 光治	自画像	1915(大正4)	油彩、板	45.4×37.3	
17	岸田 利生	黒き帽子の自画像	1914(大正3)	油彩、板	51.3×39.2	個人蔵
2 アメリカの日本人画家たち						
18	石垣 栄太郎	街	1925(大正14)	油彩、キャンバス	126.0×91.0	
19	石垣 栄太郎	拳闘	1925(大正14)	油彩、キャンバス	75.4×91.2	
20	石垣 栄太郎	キューーバ島の反乱	1933(昭和8)	油彩、キャンバス	181.5×139	
21	石垣 栄太郎	人民戦線の人々	1937(昭和12)頃	油彩、キャンバス	148.5×207	
22	浜地 清松	暖炉	1911(明治44)	油彩、キャンバス	102.2×82.1	
23	浜地 清松	静物	1922(大正11)	油彩、キャンバス	63.8×73.9	
24	浜地 清松	裸婦	1928(昭和3)	油彩、キャンバス	144.0×110.5	
25	杉本、ヘンリー	カーメルハイランド海辺	1937(昭和12)	油彩、キャンバス	80.6×106.0	
26	杉本、ヘンリー	寺院のみえるビーエー村	1940(昭和15)	油彩、キャンバス	79.0×79.0	
27	国吉 康雄	乳しばり	1921(大正10)	油彩、キャンバス	61.0×50.5	
3 フランスの風景—佐伯祐三を中心に+日本画						
28	佐伯 祐三	パリの街角	1925(大正14)	油彩、キャンバス	65.0×41.5	
29	佐伯 祐三	レ・ジュ・ド・ノエル	1925(大正14)	油彩、キャンバス	72.3×60.8	
30	佐伯 祐三	広告のある門	1925(大正14)	油彩、キャンバス	60.0×73.3	
31	佐伯 祐三	リュ・デュ・シャトーの歩道	1925(大正14)	油彩、キャンバス	60.0×73.1	
32	佐伯 祐三	オペセルヴァトワール附近	1927(昭和2)	油彩、キャンバス	73.0×92.0	







No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
3	展示室外の作品					
137	エントランスホール周辺 フラナガン、バリー	ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎 COLOR TINT -RAINBOW-	1989(平成元) 1994(平成6)	ブロンズ アクリル絵具、ミックスホワイト、木	高さ:230.0 高さ:240	
138	小河 朋司	病人を看護する	1963(昭和38)	ブロンズ	157.0×186.5×12.0	
139	グレコ、エミリオ	無題(私を覚えていて)	1988(昭和63)	シルクスクリーン、ビニール	378.7×268.1	
140	クルーガー、バーバラ	ラッカ III	1968(昭和43)	アクリル、キャンバス	304.0×760.0	
141	ステラ、フランク	series "old melancholy" 「胡鯨」	1985(昭和60)	銅、はんだ	131.0×710.0×480.0	
142	池垣 タダヒコ	熊野-moegi(萌黄)	1999(平成11)	油彩、キャンバス	270.0×320.0×320.0(3点)	作者の厚意により保存
143	北堅 吉彦	ソイル・ライブリー/和歌山	2007(平成19)	和歌山県内の土、ガラスピン	90.0×1260.0×32.0	
144	栗田 宏一					
145	階段踊り場から2階ホール周辺 北堅 吉彦	山並-senkoushu(鮮光朱) Corresponding Space I	1999(平成11) 1996(平成8)	油彩 アルミニウム	170×1020 高さ:200.0	作者の厚意により保存 展示:~10月27日
146	清水 九兵衛					
147	スネルソン、ケネス	着地	1969(昭和44)	ステンレススチール	高さ:250.0	
148	井上 雅之	T-9216	1992(平成4)	陶	高さ:216.0	
149	金子 潤	無題(ダンゴ)	1985(昭和60)	陶	高さ:57.0	
150	山口 牧生	かたむくかたち A	1984(昭和59)	黒御影石、ベンガラ	高さ:180	
151	北尾 博史	アシモトノセカイ	1999(平成11)	銅、鉄	高さ:200.0	
152	建島 覚造	MANJI	1982(昭和57)	ステンレススチール	高さ:270.0	
153	保田 春彦	球を覆う幕舎	1994(平成6)	ステンレススチール	高さ:208.0	
154	保田 春彦	聚落を囲う壁 II	1994(平成6)	鉄	高さ:60.0	



## 6. 保田春彦展 近作デッサンを中心に

会期: 10月23日(土)~2011(平成23)年1月30日(日)  
 会場: 展示室B(1階)  
 主催: 和歌山県立近代美術館  
 内容: 寄贈を受けた近年のデッサンを中心に、最新作の木彫3点なども含めて、旺盛に活動する作家の近況を紹介した。(神奈川県立近代美術館、世田谷美術館、信濃デッサン館などと同時期開催)

担当学芸員: 寺口淳治

印刷物: 出品目録(A4判4頁)

成果: 寄贈を受けた200点にのぼるデッサン類を整理し、新たに撮影できた。また、東京近郊の美術館との連携によって、関東方面の新聞や雑誌に取り上げられた。

関連記事: ・「注目の展覧会 和歌山県立近代美術館 保田春彦展」『電車&ウォーク』2010年10月、p.5

- ・「保田春彦のデッサン展 きょうから県立近代美術館」『ニュース和歌山』2010年10月23日、6面
- ・「保田春彦(彫刻家)デッサン展 23日から近代美術館で」『わかやま新報』2010年10月23日、6面
- ・「展覧会 保田春彦展」『毎日新聞』2010年10月27日、25面
- ・「和歌山県立近代美術館「保田春彦展 近作デッサンを中心に」カルチャーインフォメーション『WACA-P』34、2010年11月、p.8
- ・「文化・芸術 和歌山出身の現代彫刻家・保田春彦展 深い精神性と緊張感」『わかやま新報』2010年11月3日、3面
- ・「美術館便り 初公開の作品を巨匠出身の地で鑑賞「保田春彦展 近作デッサンを中心に」」『リビング和歌山』2010年11月6日、7面
- ・「彫刻家・保田春彦さんがパリで描いたデッサンを紹介します。」『わかやま探検ミュージアム』2、2010年12月1日、p.4

No.	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
1~5	開病デッサン 開病デッサン 開病デッサン 開病デッサン 開病デッサン	2010(平成22) 2010(平成22) 2010(平成22) 2010(平成22) 2010(平成22)	ペン、色鉛筆 ペン、色鉛筆 ペン、色鉛筆 ペン、色鉛筆 ペン、色鉛筆	34.0×25.0 25.0×34.0 46.5×69.2 34.0×25.0 25.0×34.0	個人蔵 個人蔵 個人蔵 個人蔵 個人蔵
6~9	パリでの裸婦デッサン 2008年4月~7月	2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20)	コンテ、ペン、紙 コンテ、ペン、紙 コンテ、ペン、紙 コンテ、ペン、紙	36.6×51.6 37.2×52.6 37.2×52.5 37.2×49.1	
10~20	パリでの裸婦デッサン 2008年3月~6月	2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20)	コンテ、ペン、紙 水彩、コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 水彩、コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 水彩、コンテ、ペん、紙 木 木 紙	52.6×37.2 52.5×37.2 52.5×37.0 52.5×37.0 37.2×52.5 37.2×52.5 37.3×52.6 37.3×52.6 52.6×37.2 39.6×52.6 39.1×51.6 55.0×18.0×45.0 13.0×42.0×11.0 27.0×37.5	個人蔵 個人蔵 個人蔵
24~29	パリでの裸婦デッサン 2008年3月~6月	2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20)	水彩、コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 水彩、コンテ、ペん、紙 木、竹 木、竹	51.6×36.6 52.6×37.1 39.6×52.6 52.6×37.2 左:35.6×27.0、右:35.47×26.9 左:35.7×26.9、右:35.7×26.9 210×30×45	個人蔵 個人蔵 個人蔵
30~32	昔日の紀の川堰の残像(試作)	2010(平成22) 2008(平成20) 2010(平成22)	木、竹 ブロンズ 木、竹	3.5×58.0×15.0 25.0×140.0×100.0	個人蔵 個人蔵
33~42	東京での裸婦デッサン 2007年12月~2008年4月	左:2007-8(平成19-20) 2008(平成20) 2008(平成20) 左:2008(平成20)、右:2007(平成19) 左:2008(平成20) 左:2007(平成19-20) 上:2007(平成19)、下:2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 2008(平成20) 上:2007-8(平成19-20)、下:2007(平成19) 2007(平成19)	コンテ、ペん、紙 コンテ、ペん、紙 水彩、コンテ、ペん、紙 ペン、コンテ、紙 左:コンテ、ペん、紙 右:水彩、コンテ、ペん、紙 左:コンテ、ペん、紙 右:水彩、コンテ、ペん、紙 木、竹 木、竹 左:コンテ、ペん、紙 右:水彩、コンテ、ペん紙 左:コンテ、ペん、紙 右:ペン、コンテ、紙 左:水彩、コンテ、ペん紙 右:コンテ、ペん紙 左:水彩、コンテ、ペん紙 右:コンテ、ペん紙 左:コンテ、ペん、紙 右:水彩、コンテ、ペん紙 左:コンテ、ペん、紙 右:ペン、コンテ、紙 左:コンテ、ペん、紙 右:ペン、コンテ、紙	左:35.7×27.9、右:35.7×26.9 上:26.9×下:26.9×37.8 左:各35.7×26.8 左:35.7×26.9、右:38.3×26.9 上:26.9×35.7、下:26.9×35.7 左右:各35.7×26.9 左右:各35.7×26.9 左右:各35.7×26.9 上下:各26.9×35.7 左右:各35.7×26.9	



No.	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
43~58 東京での裸婦デッサン 2007年6月~12月					
43	デッサン	2007(平成19)	コンテ、ペン、紙	左右：各35.7×26.9	
44	デッサン	2007(平成19)	コンテ、ペン、紙	左右：各35.7×26.9	
45	デッサン	2007(平成19)	コンテ、ペン、紙	上下：各26.9×35.7	
46	デッサン	2007(平成19)	コンテ、ペン、紙	上下：各26.9×35.7	
47	デッサン	2007(平成19)	ペン、コンテ、紙	左右：各35.7×26.9	
48	デッサン	2007(平成19)	ペン、コンテ、紙	左右：各35.7×26.9	
49	デッサン	2007(平成19)	左：ペン、紙 右：ペン、コンテ、紙	左右：各35.7×26.9	
50	デッサン	2007(平成19)	左：色鉛筆、ペン、紙 右：色鉛筆、紙	左右：各35.7×26.9	
51	デッサン	2007(平成19)	上：色鉛筆、ペン、紙 下：コンテ、ペン、紙	上下：各26.9×35.7	
52	デッサン	上：2007(平成19)、下：2009(平成21)	上：ペン、紙 下：色鉛筆、紙	上下：各26.9×39.6	
53	デッサン	2007(平成19)	左：色鉛筆、コンテ、紙 右：色鉛筆、ペン、紙	左右：35.7×26.8	
54	デッサン	2007(平成19)	左：色鉛筆、コンテ、ペン、紙 右：ペン、紙	左右：35.7×26.9	
55	デッサン	左：2007-8(平成19-20)、右：2007(平成19)	左：水彩、ペン、紙 右：コンテ、ペン、紙	左右：37.5×26.9	
56	デッサン	上：2007-8(平成19-20)、下：2007(平成19)	上：コンテ、紙 下：コンテ、ペン、紙	上下：各26.9×35.7	
57	デッサン	左：2007(平成19)、右：2007(平成19)	色鉛筆、ペン、紙	左：35.7×30.1、右：35.7×26.9	
58	デッサン	2007-8(平成19-20)	左：ペン、紙 右：水彩、コンテ、ペン、紙	左右：各35.7×26.9	
59~63 東京での裸婦デッサン 2007年4月~6月					
59	デッサン	2007(平成19)	ペン、紙	左：35.7×26.8、右：35.7×26.9	
60	デッサン	2007(平成19)	上：コンテ、ペン、紙 下：ペン、紙	上下：各26.9×35.7	
61	デッサン	2007(平成19)	コンテ、ペン、紙	左右：各35.7×26.9	
62	デッサン	2007(平成19)	色鉛筆、紙	上下：各35.7×26.9	
63	デッサン	2007(平成19)	ペン、紙	左右：各35.7×26.9	
64	トルソ	1955(昭和30)	セメント	102.8×47.8×36.5	
65	階段のある広場 SIRACUSA	1973(昭和48)	ステンレススチール	9.1×75.0×75.0	
66	階段のある広場 TAORMINA	1973(昭和48)	ステンレススチール	11.0×75.0×75.0	
67~72 1970年代から1990年代前半のデッサン					
67	デッサン	1970年代	鉛筆、インク、紙	上：31.8×18.0、下：17.4×24.7	
68	デッサン	1980-90年代	鉛筆、インク、紙	20.6×55.4	
69	デッサン	1980年代	鉛筆、インク、紙	上：24.9×17.5、下：24.8×17.5	
70	デッサン	1970-80年代	鉛筆、インク、紙	左上、右上、左下、右下：各12.3×18.1	
71	デッサン	1970年代	鉛筆、インク、紙	上：24.9×17.5、下：24.8×17.5	
72	デッサン	1970-80年代	鉛筆、インク、紙	左上、右上、左下、右下：各12.3×18.1	
73~77 1950年代のデッサン					
73	デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.7×25.2	
74	デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.3×24.8	
75	デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.7×25.2	
76	デッサン	1950年代	コンテ、紙	35.7×25.2	
77	格子と壁	1998(平成10)	ブロンズ	62.0×29.9×46.6	



## 2-7. コレクション展 2011-春

期：3月19日(土)～3月31日(木) [6月12日(日)]

会 場：展示室A (1階)

内 容：吉田政次の作品《青春の輝き》に題を取り、和歌山ゆかりの作家と近代日本美術コレクションから、作家が20代で制作した作品を中心的に紹介するとともに、没後30年となる和田傳太郎の戦前の作品によるコーナーを設けた。また近年の物故作家を紹介するコーナーを設け、荒川修作、中里斎、森口宏一、船井裕らの作品を展示了。

担当学芸員：奥村泰彦

印 刷 物：出品目録(A4判8頁、吉田政次の世界展と共通)

入 場 料 金：一般340円(270円)、大学生230円(180円) ( )内は20名以上の団体料金

高 校 生 以 下、県 内 留 学 生・就 学 生、65歳 以 上、障 害 者 の 方 は 入 場 料 金 無 料

「吉田政次の世界」展と共通

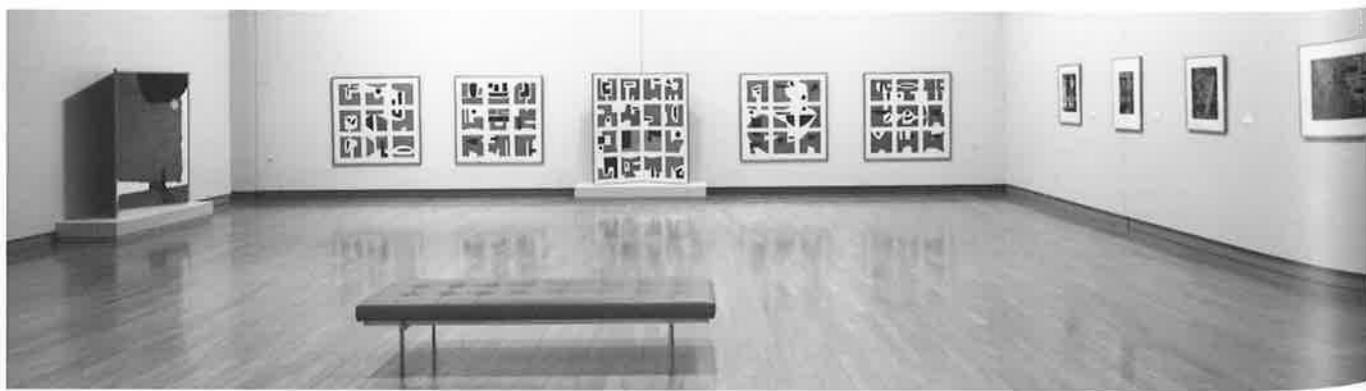
成 果：作家が作品を制作した時の年齢を手がかりに作品をまとめ、キャプションに年齢を記入した。和田傳太郎の作品も青年期のものが多く、また近年の物故作家については享年を記入したことから、年齢と作品とを比較して見る、新たな視点を観客に提示できた。今後、壮年期や晩年といった視点からも、作品を見直すことができるものと思われる。

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
1 「青春の輝き」20代の作品を中心に						
1	神中 糸子	海岸風景	1888-92(明治21-25)	油彩、キャンバス	38.0×80.4	
2	鹿子木 孟郎	パイプを持つ男	1906(明治39)	油彩、キャンバス	79.6×64.0	
3	中村 不折	白頭翁	1907(明治40)	油彩、キャンバス	200.2×136.6	個人蔵
4	山下 新太郎	臥婦	不詳(大正10年代)	油彩、キャンバス	79.5×140.7	個人蔵
5	田中 恭吉	ニコライ	1912(大正元)頃	油彩、板	22.0×15.5	
6	保田 龍門	潮風にもまれた椿	1914-16(大正3-5)頃	油彩、キャンバス	60.9×46.1	
7	林 義明	伊豆大島小景	1915(大正4)	油彩、キャンバス	45.6×60.7	
8	寺中 美一	自画像	1916(大正5)	油彩、キャンバス	45.7×33.6	
9	岸田 劉生	黒き帽子の自画像	1914(大正3)	油彩、板	51.3×39.2	個人蔵
10	高須 光治	自画像	1915(大正4)	油彩、板	45.4×37.3	
11	東郷 育児	静物	1924(大正13)	油彩、キャンバス	46.0×38.0	
12	松本 総介	三人	1943(昭和18)	油彩、キャンバス	162.2×112.5	個人蔵
13	鳥海 青児	蘇州風景	1939(昭和14)	油彩、キャンバス	89.6×145.8	個人蔵
14	保田 龍門	少女	1925(大正14)	ブロンズ	173.5×67.0×43.0	
15	建島 大夢	憩う女	1925(大正14) [鋳造：1970] ブロンズ		113.0×39.0×73.0	
16	山口 八九子	月ヶ瀬梅溪	1921(大正10)頃	顔料、絹	144.0×55.9	
17	案 テルヲ	桃割れの娘	1914(大正3)頃	顔料、寒冷紗	110.8×42.2	
18	土川 実櫻	梅ヶ畠村	1915(大正4)	顔料、絹	145.0×50.9	
19	吹田 草牧	南国之初夏	1919(大正8)頃	顔料、絹	127.0×42.1	
20	野長瀬 晚花	[初夏]	1912(大正元)	顔料、絹	110.2×41.8	
21	伊藤 草白	葡萄之図	1925(大正14)	顔料、絹	41.9×51.4	
22	徳力 富吉郎	人形	1927(昭和2)	顔料、絹	40.0×51.4	
23	杉田 勇次郎	蔬菜	1925(大正14)	顔料、絹	45.5×52.5	
24	佐伯 祐三	帽子をかぶる自画像	1922(大正11)	油彩、キャンバス	73.3×53.9	





No.	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	備考
1	青春の輝き No.2	1969(昭和44)	木版、紙	86.8×72.0	
2	静 No.28	1953(昭和28)	木版、紙	33.2×24.3	
3	静 No.36	1953(昭和28)	木版、紙	37.1×26.3	
4	静 No.70	1955(昭和30)	木版、紙	31.5×39.7	
5	森の精 No.1	1955(昭和30)	木版、紙	55.0×84.5	
6	地の泉 No.1	1956(昭和31)	木版、紙	51.9×83.2	
7	New Star No.1	1956(昭和31)	木版、紙	60.6×48.0	
8	悲しい記録 No.1	1956(昭和31)	木版、紙	60.3×42.6	
9	哀愁の日	1956(昭和31)	木版、紙	59.5×43.7	
10	悲しい日	1957(昭和32)	木版、紙	59.5×43.9	
11	憂愁の空 No.2	1957(昭和32)	木版、紙	43.7×71.8	
12	雷 No.2	1958(昭和33)	木版、紙	45.3×37.8	
13	閃光	1958(昭和33)	木版、紙	43.3×28.6	
14	新しい発生 No.2	1958(昭和33)	木版、紙	45.2×37.8	
15	相対性絵画 No.2	1959(昭和34)	木版、紙	126.0×15.5	個人蔵
16	相対性絵画 No.3	1959(昭和34)	木版、紙	125.6×125.5	個人蔵
17	相対性絵画 No.6	1959(昭和34)	木版、紙	155.3×155.4	個人蔵
18	相対性絵画 No.8	1959(昭和34)	木版、紙	125.4×125.5	個人蔵
19	相対性絵画 No.9	1959(昭和34)	木版、紙	125.8×125.3	個人蔵
20	空間 No.5	1960(昭和35)	木版、紙	155.3×155.4	個人蔵
21	空間 No.8	1960(昭和35)	木版、紙	73.5×40.7	
22	無限 No.4	1961(昭和36)	木版、紙	74.3×40.5	
23	空間 No.17	1962(昭和37)	木版、紙	51.6×52.0	
24	空間 No.15	1962(昭和37)	木版、紙	61.0×60.6	
25	空間 No.33	1963(昭和38)	木版、紙	57.1×57.0	
26	空間 No.36	1963(昭和38)	木版、紙	45.1×44.9	
27	芸術の壁 No.1, 2	1964(昭和39)	木版、紙	214.0×215.0	個人蔵
28	空間 No.46	1965(昭和40)	木版、紙	60.9×60.7	
29	空間 No.48	1965(昭和40)	木版、紙	59.6×59.8	
30	空間 No.50	1965(昭和40)	木版、紙	45.8×43.7	
31	壁の中の白 No.6	1965(昭和40)	木版、紙	60.1×60.1	
32	壁の中の白 No.5	1965(昭和40)	木版、紙	61.1×61.2	
33	我が宇宙 No.1	1965(昭和40)	木版、紙	178.8×182.0	
34	こだま No.1	1967(昭和42)	木版、紙	60.5×45.7	
35	大地の響き No.1	1967(昭和42)	木版、紙	77.0×61.1	
36	躍動する心 No.1	1968(昭和43)	木版、紙	86.7×72.2	
37	躍動する心 No.2	1968(昭和43)	木版、紙	77.9×60.4	
38	躍動する心 No.4	1968(昭和43)	木版、紙	75.8×58.5	
39	躍動する心 No.6	1968(昭和43)	木版、紙	86.1×71.5	
40	ミニとデモの時代 No.1	1968(昭和43)	木版、紙	86.8×72.0	
41	箱入り娘 No.1	1968(昭和43)	木版、紙	74.1×56.8	
42	流行と女性 No.1	1968(昭和43)	木版、紙	83.5×59.7	
43	熱砂 No.1	1968(昭和43)	木版、紙	60.5×46.0	
44	作品	1969(昭和44)	インク、墨、紙	59.7×49.8	



## 特別事業

### 1 第64回和歌山県美術展覧会(県展)

主 催: 和歌山県

共 催: 和歌山県教育委員会、和歌山県立近代美術館、和歌山県美術家協会、毎日新聞社和歌山支局、財團法人和歌山県文化振興財団、橋本市、新宮市、上富田町

協 賛: 財團法人和歌山県文化振興財団

本展会期: 11月2日(火)~11月14日(日)

本展会場: 展示室C(2階)

内 容: 第64回和歌山県美術展覧会(県展)を開催した。

印 刷 物: ポスター、チラシ、出品目録(A4判32頁)

展示点数: 公募部門83点(洋画、日本画、書、写真、工芸、彫塑部門の入賞作品及び彫塑の入選作品)、マスターズ・オブ・アート和歌山部門等51点(第62回~第64回審査員の作品、マスターズ・オブ・アート和歌山彫塑部門作品、県美術家協会長作品)計134点※

入場料金: 無料

※和歌山県民文化会館県民ギャラリーでも二期に分けて県展を開催(同会期)。県民ギャラリーにおける出品点数は公募部門207点、マスターズ・オブ・アート和歌山部門202点、計409点。

### 2 平山郁夫追悼展示、小沢道治展

会 期: 11月20日(土)~12月23日(木・祝)

会 場: 展示室C(2階)

主 催: 和歌山県立近代美術館、NHK和歌山放送局

内 容: 一昨年12月病没された当館名誉館長・平山郁夫(1930~2009)の追悼展示と、生前に

平山夫妻と親交のあった和歌山県九度山町出身の日本画家・小沢道治(1915~2000)の作品を同時に紹介した。

担当学芸員: 寺口淳治、浜田拓志

関連事業: 講演会「松山家と平山家の関係」11月20日(土) 平山美知子

(平山郁夫シルクロード美術館館長)

「万葉に魅せられて」11月23日(火・祝) 平山弥生(平山郁夫長女)

お茶会 11月21日(日) 協力: 表千家和歌山青年部

コンサート 12月11日(土) 涂善祥(中国琵琶奏者)

印 刷 物: • ポスター(B2判)

• チラシ(A4判)

• パンフレット(A4判8頁、2種)

「日本画が結ぶ心ー平山郁夫追悼展示」

雪山行二「平山郁夫追悼展示」に寄せて

図版、平山郁夫年譜

「日本画が結ぶ心ー小沢道治」展

雪山行二「小沢道治展」に寄せて

図版、印譜、小沢道治のアルバムより、小沢道治年譜

• 出品目録(A4判1頁、2種)

入場料金: 一般 800(650)円、大学生 500(400)円 ( )内は20名以上の団体

高校生以下、県内留学生・就学生、65歳以上、障害者の方は入場料金無料

成 果: 平山郁夫については、日本の風景に的を絞り、平山郁夫シルクロード美術館の協力によって、大作を含めて紹介できた。また、小沢道治については、教職のかたわら制作していたため、地元の和歌山でもほとんど知られることのなかった作家であるが、東京美術学校時代の作品からまとめて紹介し、その画歴を紹介することができた。







- ：1月22日(土) 7名参加
- ：3月26日(土) 6名参加
- ・中学校社会科研修会において、県立博物館と共同で博物館施設の利用促進をアピールした。：6月9日(水) 60名参加

#### 6 インターンシップなどの受入

- ・文部科学省の推進するキャリア教育の一環として、教育委員会並びに各学校の取り組んでいるインターンシップ、職場体験学習等を受け入れた。

受入件数	人 数	日 数	延 人 数
高 校 生	5名	5日	13名
中 学 生	49名	37日	133名
計16件	54名	42日	146名

#### 7 和歌山大学よりインターンの受入

- ・和歌山大学観光学部の学生1名を5月から7月にかけて、計12日間インターンとして受け入れた。当館のコレクション研究のため、大正期を中心とした美術動向に関する資料調査とともにを行った。

#### 8 博物館実習生の受入

- ・大学での博物館学芸員資格取得のために必要な履修科目である博物館実習の実習生を受け入れた。  
期間：8月19日(木)～8月25日(水) [23日(月)は休館] 計6日間

受 入 校	受 入 人 数
大 阪 教 育 大 学	1名
大 阪 芸 術 大 学	2名
帝 塚 山 学 院 大 学	1名
計 3 大 学	4名

#### 10 ボランティア活動の受入

- ・ボランティアグループ「虹」の会員および個人参加者により、図書資料の仕分け、データ入力、配架等が行われた。  
(受入人数：登録者14名 延178名)

#### 11 その他、施設利用など

- ・「県警音楽隊たそがれコンサート」6月11日(金)、6月25日(金)、7月23日(金)、8月13日(金)、8月27日(金)主催：和歌山県警察音楽隊、アプローチプラザ
- ・「ミュージアム クリフ映画会」7月23日(金)、主催：和歌山県BBS連盟、アプローチプラザ
- ・第15回「名月に舞う」9月25日(土)、主催：和歌山文化協会、アプローチプラザ周辺
- ・第9回「秋のシャンソンカーニバル」10月10日(日)主催：和歌山シャンソン友の会 アプローチプラザ

#### 12 平成22年度和歌山県緊急雇用創出事業：県立近代美術館所蔵作品データベース整備事業

- ・県立近代美術館に所蔵されている所蔵作品、寄託作品(約12,000点)に係る作品カードとコンピュータのデータベースの照合確認を行い、精度の高いデータベースとして構築することにより、来館者用端末等における情報提供の基盤整備を行った。  
事業期間 平成22年9月20日～平成23年3月31日  
作業人員 延476人(派遣職員)

#### 13 平成22年度「全国の博物館・美術館等における収蔵品デジタル・アーカイブ化に関する調査・研究」事業：文化遺産オンライン化事業

- ・平成21年度に文化庁が開発した文化遺産情報一括入出力ツールのうち、入力機能を使い、和歌山県立近代美術館の収蔵作品のデータ77件を文化遺産オンラインに掲載して公開した。収蔵品の登録・公開は今後隨時行っていく予定である。また文化遺産情報一括入出力ツールのうち、出力機能を使い、和歌山県立近代美術館のホームページの中に、収蔵作品検索・閲覧ページを作成し、3月末から公開した。  
事業期間 平成22年10月1日～平成23年3月23日  
作業人員 延73人(派遣職員)

#### 14 「和歌山県立近代美術館友の会」活動に対する協力

- ・楽しみながら美術に親しむ会として「和歌山県立近代美術館友の会」を組織し、当館の活動に支援を受けるとともに、美術作品を鑑賞し、語り合う場を設けることに協力した。

1. 会員の現状  
一般会員 237名、学生会員 4名、賛助会員 9名、名譽会員 7名 計 257名

2. 助成事業の実績

- ・友の会は、会員に対して美術館事業に理解を持ち、常に美術作品に親しみを持つことができるよう常設展及び特別展の観覧並びに図録の購入に対して助成を行っている。
  - (1)展覧会入場者延人数 336名  
(美術百科展 7名 常設展 34名 ようこそ彫刻の森へ展 83名 日本近代の青春 54名 平山郁夫追悼展示、小沢道治展 100名 油絵の魅力 イズムを超えて 40名 版画の「アナ」展 18名)
  - (2)図録購入 1冊

3. 友の会の主催事業

- (1)版画プレゼント 吉原英里氏制作の版画(4種類)の中から 1 点  
8月28日(土)  
講演会 2階ホール 15時～16時 約60名参加  
茶話会 1階応接室 16時10分～17時 約60名参加
- (2)ミュージアムコンサート  
かとうかなこ(アコーディオン)、大森ヒデノリ(フィドル・マンドーラ)コンサート  
11月27日(土) コンサート 15時～17時 2階ホール 約130名参加
- (3)美術鑑賞ツアーの開催  
10月17日(日) 京都市美術館「京都日本画の誕生—巨匠たちの挑戦」展鑑賞 84名参加
- (4)ミニ鑑賞ツアー  
6月26日(土) 10時～15時30分 和歌山県立近代美術館・和歌山県立博物館ナビゲーター：井上主査学芸員 28名参加
- (5)館広報誌・その他への情報提供  
美術館が発行するミュージアムカレンダー、美術館ニュース、特別展招待状などを配布

## 作品貸付

## 1 「もっと、光を」ドキドキ少年撮影隊 ミュージアム編

日 時：7月24日(土)、25日(日)  
 主 催：NPO法人 和歌山芸術文化支援協会  
 助 成：花王・コミュニティミュージアム・プログラム2009  
 協 賛：カメラの西本、オリンパスイメージング株式会社  
 協 力：EU・ジャパンフェスト日本委員会  
 協力内容：東京藝術大学教授・佐藤時啓氏をナビゲーターとして招き、写真を用いて「ようこそ彫刻の森へ」展を見るワークショップの実施に協力した。

## 2 森のちからⅣ 森のなかのカメラ・オブスキュラ

日 時：8月～9月  
 主 催：NPO法人 和歌山芸術文化支援協会  
 協力内容：東京藝術大学教授・佐藤時啓氏を招聘した田辺市中辺路町近露でのアーティスト・レジデンス事業実施に関して、作家の選考から事業プログラムへの参画など、全般的な協力を行った。

## 3 和歌山大学教育学部附属中学校研究授業への協力

日 時：平成22年11月9日(火)～19日(金)  
 協力内容：奥山部分を用いたインスタレーションによる研究授業に協力を行った。

## 4 A-Void 福原隆造+グレゴール・カムニカル デュオ・ダンスパフォーマンス

日 時：平成23年2月3日(木) 14:00-14:45  
 主 催：NPO法人 和歌山芸術文化支援協会  
 協力内容：和歌山芸術文化支援協会とともに、事業プログラムの策定から実施にわたる全般的な協力を行った。奥山部分でのパフォーマンス後、館内ホールにて作家と語る会を持った。

下記12件の展覧会に総計51点の作品貸付を行った。

## 1 「佐伯祐三と新宿の画家たち」展 [前年度より]

貸付期間：2010(平成22)年3月16日～5月28日  
 主 催：財団法人新宿区生涯学習財團、新宿歴史博物館  
 会期・会場：3月27日～5月9日、新宿歴史博物館

## 作 品：作者名《作品名》制作年

佐伯祐三《レ・ジュ・ド・ノエル》1925(大正14)  
 佐伯祐三《広告のある門》1925(大正14)  
 佐伯祐三《帽子をかぶる自画像》1922(大正11)  
 佐伯祐三《下落合風景》1926(大正15・昭和元)頃  
 佐伯祐三《男の顔(K氏の像)》1927(昭和2)  
 資料 佐伯祐三ライスマスク

## 2 「没後10年記念三岸節子展」[前年度より]

貸付期間：2010(平成22)年3月16日～8月25日  
 主 催：朝日新聞社、岡山県立美術館、松坂屋美術館  
 会期・会場：3月31日～4月19日、大阪高島屋  
 4月22日～5月10日、日本橋高島屋  
 6月8日～7月4日、岡山県立美術館  
 7月7日～8月10日、松坂屋美術館

## 作 品：作者名《作品名》制作年

三岸節子《捕らわれた鳥》1953(昭和28)

## 3 「海を想う」展

貸付期間：2010(平成22)年5月21日～12月17日  
 主 催：海を想う展実行委員会、釧路市立美術館、田辺市立美術館、八幡浜市民ギャラリー、唐津市近代図書館  
 会期・会場：2010年6月5日～7月11日、釧路市立美術館  
 2010年7月19日～9月12日、田辺市立美術館  
 2010年9月18日～10月24日、八幡浜市民ギャラリー  
 2010年10月30日～12月5日、唐津市近代図書館

## 作 品：作者名《作品名》制作年

梅原龍三郎《静浦(口野)風景》1929(昭和4)  
 〔釧路市立美術館、田辺市立美術館のみ〕  
 川口軌外《熊野灘》1940(昭和15)  
 山口八九子《橋立風景》1921(大正10)

## 4 「池田龍雄アヴァンギャルドの軌跡」展

貸付期間：2010(平成22)年6月5日～2011(平成23)年3月27日  
 主 催：「池田龍雄アヴァンギャルドの軌跡」展実行委員会、山梨県立美術館、川崎市岡本太郎美術館、福岡県

## 立美術館

会期・会場：6月19日～7月19日、山梨県立美術館  
 10月9日～1月10日、川崎市岡本太郎美術館  
 1月29日～3月13日、福岡県立美術館

作 品：作者名《作品名》制作年  
 池田龍雄《規格品》1956(昭和31)

## 5 「新しい神話が始まる。古賀春江の全貌展」

貸付期間：2010(平成22)年6月20日～12月8日  
 主 催：石橋美術館、神奈川県立近代美術館、東京新聞  
 会期・会場：7月3日～9月5日、石橋美術館  
 9月18日～11月23日、神奈川県立近代美術館

作 品：作者名《作品名》制作年  
 古賀春江《海水浴》1922(大正11)

## 6 「ロボットと美術 身体×機械のビジュアルイメージ」展

貸付期間：2010(平成22)年6月29日～2011(平成23)年1月21日  
 主 催：ロボットと美術展実行委員会、青森県立美術館、静岡県立美術館、島根県立石見美術館  
 会期・会場：7月10日～8月29日、青森県立美術館  
 9月18日～11月7日、静岡県立美術館  
 11月20日～1月10日、島根県立石見美術館

## 作 品：作者名《作品名》制作年

高井貞二《感情の遊離》1932  
 カレル・チャペック『R.U.R.』第4版 1921(大正10)

カレル・チャペック『R.U.R.』第6版 1921(大正10)  
 カレル・チャペック『R.U.R.』ロシア語初版  
 1924(大正13)

カレル・チャペック『R.U.R.』ハンガリ語版  
 1922(大正10)  
 『松竹座ニュース』2-17 1925(大正14)

『松竹座ニュース』2-19 1925(大正14)  
 『松竹座ニュース』3-8 1926(大正15・昭和元)

『松竹座ニュース』3-12 1926(大正15・昭和元)  
 『松竹座ニュース』3-21 1926(大正15・昭和元)

『松竹座ニュース』4-8 1926(大正15・昭和元)  
 『松竹座ニュース』5-12 1927(昭和2)

『松竹座ニュース』6-17 1927(昭和2)  
 カルロ・コッローデイ  
 『ピノッキオ あるあやつり人形の冒険』

1904(明治37)  
 佐藤春夫訳『ピノチオ』 1948(昭和23)

## 調査・研究・発表活動および対外協力活動

### 7 「神々のすがた古事記と近代美術」展

貸付期間：2010(平成22)年9月7日～11月19日

主 催：島根県立石見美術館

会期・会場：9月17日～11月7日、島根県立石見美術館

#### 作品：作者名《作品名》制作年

保田龍門《すさのおの命／大国主命とすせり姫》  
1942(昭和17)

### 8 「三岸節子展色彩のエスプリ」展

貸付期間：2010(平成22)年9月21日～11月30日

主 催：一宮市三岸節子記念美術館、朝日新聞社

会期・会場：10月9日～11月23日、一宮市三岸節子記念美術館

#### 作品：作者名《作品名》制作年

三岸節子《捕らえられた鳥》1953(昭和28)

### 9 「第23回京都美術文化賞受賞記念展」

貸付期間：2010(平成22)年9月24日～10月19日

主 催：財団法人 中信美術奨励基金

会期・会場：10月5日～10月11日、京都文化博物館5階展示室

#### 作品：作者名《作品名》制作年

野村仁《午前のアナレンマ》1990(平成2)  
野村仁《正午のアナレンマ》1990(平成2)  
野村仁《午後のアナレンマ》1990(平成2)  
野村仁  
《ようこそ地球へ、では2379年後に再会しましょう》  
1997(平成9)

### 10 「麻生三郎展」

貸付期間：2010(平成22)年10月29日～2011(平成23)年6月24日

主 催：東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、愛知県美術館

会期・会場：11月9日～12月19日、東京国立近代美術館  
1月5日～2月20日、京都国立近代美術館  
4月29日～6月12日、愛知県美術館

#### 作品：作者名《作品名》制作年

麻生三郎《生きている気配2》1978(昭和53)

### 11 「木版画家・内田静馬 素朴美へのまなざし」展

貸付期間：2011(平成23)年1月15日～3月25日

主 催：川越市立美術館

会期・会場：1月29日～3月12日、川越市立美術館

#### 作品：作者名《作品名》制作年

内田 静馬《[トンネル]》不詳  
内田 静馬《[果物]》不詳  
内田 静馬《卓上の雑器》1929(昭和4)  
内田 静馬《[白菜]》1929(昭和4)頃  
内田 静馬《[鰯二匹] (静物)》1932(昭和7)頃  
内田 静馬《[南洋果物とリンゴとナイフ] (静物)》  
1932(昭和7)頃  
内田 静馬《第八佐渡丸(B)》1935(昭和10)  
内田 静馬《百日草》1936(昭和11)  
内田 静馬《がんぎ通り》1939(昭和14)  
内田 静馬《雪の街》1939(昭和14)  
内田 静馬《雪の高田市(大手町通り)『新日本百景』》  
1939(昭和14)  
内田 静馬《[金魚鉢]》不詳  
内田 静馬《鏡の前》不詳

### 12 「原勝四郎展」

貸付期間：2011(平成23)年2月1日～3月31日

主 催：田辺市立美術館

会期・会場：2月11日～3月21日、田辺市立美術館

#### 作品：作者名《作品名》制作年

原勝四郎《裸婦》1930(昭和5)  
原勝四郎《画工像》1931(昭和6)  
原勝四郎《道化》1941(昭和16)  
原勝四郎《婦人像》1953(昭和28)

### 浜田拓志

- 特別事業「平山郁夫追悼展示、小沢道治展」を担当
- 文化遺産オンラインの運用に関する検討会【文化庁、5月7日】
- 高知県立美術館資料収集審査会委員【6月24日】
- 田辺市立美術館協議会委員 作品選定委員会委員【11月1日】
- 全国美術館会議ホームページ運営研究部会事務幹事
- 平成22年度第1回全国美術館会議研究部会幹事会【京都国立近代美術館、11月29日】

### 寺口淳治

- 「開館40周年記念展 I ようこそ彫刻の森へ」を担当、フロアレクチャー(7頁参照)
- 「開館40周年記念展 II 近代日本の青春 創作版画の名品」を担当、図録編集および執筆「つなぐひと－恩地孝四郎についての覚書」「作家解説」(10頁参照)
- 「保田春彦展 近作デッサンを中心に」展を担当(40頁参照)
- 特別事業「平山郁夫追悼展示、小沢道治展」を担当、パンフレットを編集
- 平成22年度「わかやま県議会だより」紙面レイアウトコンペ審査員【5月27日】
- 第62回広島県美術展審査員【6月22日】

- 大阪市立近代美術館(仮称)建設準備室美術資料評価委員【7月20日】
- 平成22年度第2回京都国立近代美術館美術作品購入等評価委員会評価員【10月12日】
- 兵庫県立美術館評価委員会委員【2011(平成23)年2月2日】
- 執筆 機関誌『NEWS』No.63「展覧会『ようこそ 彫刻の森へ』+ワークショップ『もっと、光を』」、No.64+65「『進化の過程』についての覚書」

### 奥村泰彦

- 「コレクション展 2010～春」を担当(29頁参照)
- 「宇佐美圭司－絵画の歩み」を担当、鑑賞ワークショップ「おとなとこどもで楽しむ一点」(32頁参照)
- 近畿大学「博物館実習」講座、講義【5月6日】
- 財団法人堀江オルゴール博物館理事【6月27日】
- 文化財研修会講師【無量寺・串本応挙芦雪館、8月2日】
- 第19回わかやまソフトウェア・CGコンテスト'10 審査員【2011(平成23)年1月8日】
- 執筆「紀のくにの美 文化をはぐくむ」『毎日新聞』5月18日、19面
- 執筆 機関誌『NEWS』No.63「川口軌外 古キヤンの理由」、No.66「吉田政次の世界展」

### 井上芳子

- 「開館40周年記念展 II 近代日本の青春 創作版画の名品」を担当、図録編集および執筆「『月映』の周辺 象徴主義をめぐって」、フロアレクチャー(10頁参照)
- 美術館友の会「ミニ鑑賞ツアー」ナビゲーター【6月26日】
- 平成23年度用和歌山県職員募集案内およびポスター企画制作プロポーザル審査【10月7日、和歌山県人事委員会事務局】

- 講演会講師「日本の近代版画・入門」「齊藤清と近代版画展」記念講演会、東大阪市民美術センター、6月27日】

### 植野比佐見

- 「版画の「アナ」 ガリ版がつなぐ孔版画の歴史」展を担当、フロアレクチャー(22頁参照)
- 「コレクション展 2010～秋冬」を担当(37頁参照)
- 執筆 機関誌『NEWS』No.66に「清水武次郎の仕事－贈写版からはじまる孔版画の創造」

### 奥村一郎

- 「コレクション展 2010～夏秋」展を担当、アーティストトークおよびこどもギャラリートーク(33頁参照)
- 「大亦新治郎のスケッチから－明治・大正の和歌山のまち」を担当(35頁参照)
- 「歯・口の健康に関する図画・ポスター」審査会審査員【和歌山県教育委員会健康体育課、9月2日】
- 「日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ」の依頼による鈴木昭男インタビュー第2回【9月29日】
- 「アート・アンド・クリティーク2010－エクステンション」講評会講師【成安造形大学、11月8日】
- 「to/from 匠町」トークセッションゲスト【2011(平成23)年3月20日、匠町ギャラリー】
- 執筆「土の色ってどんな色？《ソイル・ライブラリー／和歌山》『アガサス』2010年5月号
- 執筆「明治・大正の和歌山市内描く 大亦新治郎スケッチ展 現在も残る面影 対比楽しんで／紀のくにの美 文化をはぐくむ」『毎日新聞』7月27日、21面和歌山欄
- 執筆 機関誌『NEWS』No.64+65「美術館にアートを贈る会」より、栗田宏一作品寄贈「夏休みの中学生と美術館～美術館と学校の連携による取組み」

### 宮本久宣

- 「開館40周年記念展 III 油絵の魅力 イズムを超えて」展を担当、フロアレクチャー(19頁参照)
- 執筆「本多錦吉郎 羽衣天女」『國華』1382号、國華社、12月20日
- 執筆 機関誌『NEWS』No.64+65「油絵の魅力 イズムを超えて」展に寄せて「研究ノート 浜地清松《裸婦》をめぐって 鹿子木孟郎からの手紙とともに」

## 収集事業

### 和歌山県立近代美術館美術作品収集方針

- 日本画  
1. 下村觀山、川端龍子を軸とする院展の作家たち  
2. 野長瀬晩花を軸とする国画創作協会の作家たち  
洋画  
3. 川口軌外を軸とする1930年協会、初期独立美術協会の作家たち  
4. 村井正誠を軸とする自由美術家協会、モダンアート協会の作家たち  
5. 石垣栄太郎、ヘンリー杉本、高井貞二を軸とするアメリカで学んだ作家たち  
版画  
6. 本県にゆかりのある恩地孝四郎、田中恭吉、逸見享、吉田政次、浜口陽三らを軸とする近現代版画  
彫刻  
7. 本県にゆかりのある建畠覚造、保田春彦を軸とする現代彫刻  
その他  
8. 戦後美術  
ア パンリアル美術協会  
イ 走泥社  
ウ デモクラート美術家協会  
エ 具体美術協会  
9. 現代の美術  
10. 海外の美術

### 和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会委員名簿

榎本 長治 会社社長  
酒井 哲朗 福島県立美術館館長  
村田慶之輔 川崎市岡本太郎美術館館長

### 第32回美術作品選定委員会

日 時：2011(平成23)年3月10日(木) 午後1時30分より開催  
出 席：榎本長治委員、酒井哲朗委員、村田慶之輔委員  
内 容：購入候補作品ならびに寄贈候補作品について、受け入れの妥当性について協議を行った。

### 2010(平成22)年度収蔵作品点数

購入作品	9点
受贈作品	74点
購入美術資料	3点
受贈美術資料	19点

## 2010(平成22)年度 購入作品

各作品の作者名、作品名、制作年、  
技法、材質、寸法、備考[台帳番号]  
を作者名アルファベット順→制作年  
の順に配列



1. 浜地清松 HAMACHI Seimatsu  
裸婦  
1938(昭和13)  
油彩、キャンバス  
112.5×145.5  
[9494]



2. 川口軌外 KAWAGUCHI Kigai  
月夜の雪景  
1933(昭和8)  
油彩、キャンバス  
92.2×65.2  
[9562]



3. 松谷武判 MATSUTANI Takesada  
作品C  
1961(昭和36)  
油彩、カスガイ、セメント、合板  
182.5×91.5  
[9561]



4. 恩地孝四郎 ONCHI Koshiro  
[失題]  
1914(大正3)  
木版、紙  
19.1×15.5  
[9564]



5. 恩地孝四郎 ONCHI Koshiro  
「抒情」5種 わかれとのぞみと  
[5 手摺]  
1915(大正4)  
木版、紙  
13.6×9.8  
[9565]



6. 恩地孝四郎 ONCHI Koshiro  
裸膚白布  
1929(昭和4)  
木版、紙  
23.4×39.9  
[9566]



7. 杉山英行 SUGIYAMA Hideyuki  
現象  
1977(昭和52)  
シルクスクリーン、紙  
54.3×40.6  
[9495]



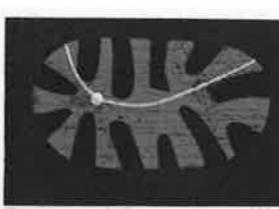
8. 杉山英行 SUGIYAMA Hideyuki  
[無題]  
1977(昭和52)  
シルクスクリーン、紙  
54.3×40.7  
[9496]



9. 杉山英行 SUGIYAMA Hideyuki  
[無題]  
1977(昭和52)  
シルクスクリーン、紙  
55.4×40.6  
[9497]

## 2010(平成22)年度 寄贈作品

各作品の作者名、作品名、制作年、  
技法、材質、寸法、備考[台帳番号]  
を作者名アルファベット順→制作年  
の順に配列



1. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
赤い化石  
1968(昭和43)  
孔版、紙  
17.5×26.8  
作者寄贈  
[9534]



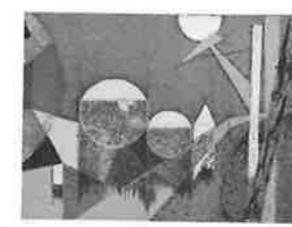
2. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
氣流  
1968(昭和43)  
孔版、紙  
29.3×20.0  
作者寄贈  
[9535]



3. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
海の華(1)  
1969(昭和44)  
孔版、紙  
43.6×30.0  
作者寄贈  
[9536]



4. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
海の華(II)  
1969(昭和44)頃  
孔版、紙  
43.5×29.8  
作者寄贈  
[9532]



5. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
白い街  
1969(昭和44)  
孔版、紙  
43.5×30.0  
作者寄贈  
[9537]



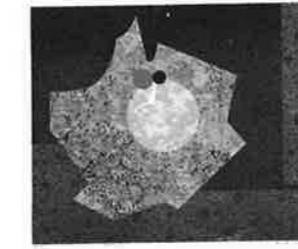
6. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
向う側  
1969(昭和44)  
孔版、紙  
41.1×30.1  
作者寄贈  
[9538]



7. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
遠い街  
1969(昭和44)  
孔版、紙  
28.4×21.3  
作者寄贈  
[9539]



20. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
細胞の進路  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
28.3×27.1  
作者寄贈  
[9551]



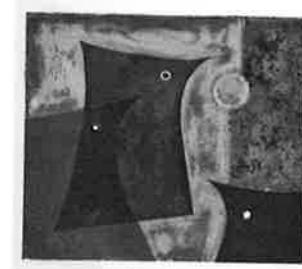
21. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
風媒花  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
21.6×26.0  
作者寄贈  
[9552]



22. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
宙からの朝  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
28.6×39.5  
作者寄贈  
[9554]



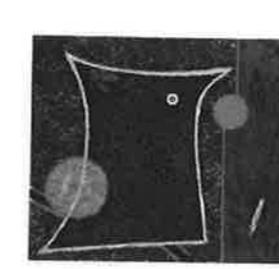
23. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
城塞  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
16.6×29.0  
作者寄贈  
[9553]



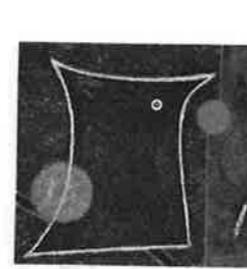
8. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
夜明けの対話(I)  
1969(昭和44)  
孔版、紙  
26.5×30.3  
作者寄贈  
[9540]



9. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
ボールとの対話  
1969(昭和44)  
孔版、紙  
26.5×30.4  
作者寄贈  
[9541]



10. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
赤い炎の対話  
1969(昭和44)  
孔版、紙  
19.3×20.4  
作者寄贈  
[9543]



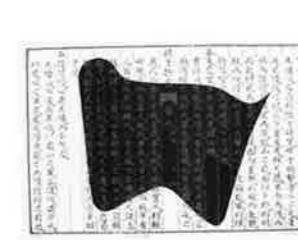
11. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
孤独の炎  
1969(昭和44)  
孔版、紙  
19.3×23.0  
作者寄贈  
[9544]



24. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
望郷  
1972(昭和47)  
孔版、紙  
22.2×30.4  
作者寄贈  
[9555]



25. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
満月の対話(II)  
1972(昭和47)頃  
孔版、紙  
21.3×22.6  
作者寄贈  
[9556]



26. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
兵法の記録  
1980(昭和55)頃  
孔版、紙  
23.4×35.7  
作者寄贈  
[9560]



27. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
バタフライ(A)  
1980(昭和55)頃  
孔版、紙  
31.5×25.8  
作者寄贈  
[9560]



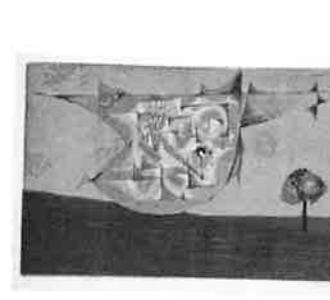
30. 栗田 宏一 KURITA Koichi  
ソイル・ライブラー／和歌山  
2007(平成19)  
和歌山県内の土、ガラスビン  
ガラスビン：  
直径5.4×高さ11.8×108点  
美術館にアートを贈る会寄贈  
[9488]



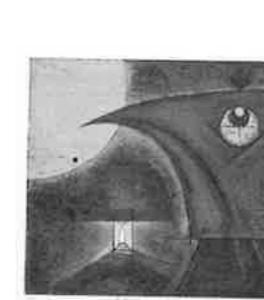
35. 小野 教治 ONO Kyoji  
牛車  
1955(昭和30)  
油彩、キャンバス  
146.0×113.0  
小野泰子氏寄贈  
[9569]



12. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
とり(A)  
1969(昭和44)頃  
孔版、紙  
31.1×20.3  
作者寄贈  
[9542]



13. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
重い鳥  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
29.5×45.3  
作者寄贈  
[9533]



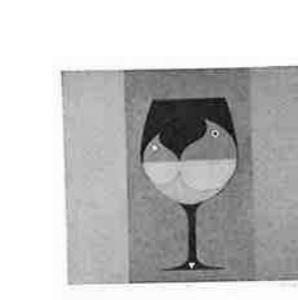
14. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
友・遠方より  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
23.6×26.5  
作者寄贈  
[9545]



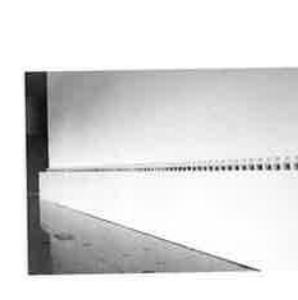
15. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
明日へ  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
31.0×21.4  
作者寄贈  
[9546]



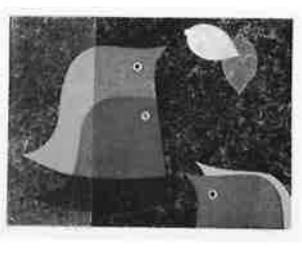
28. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
海の唄(コバルト色)  
1983(昭和58)頃  
孔版、紙  
24.5×27.1  
作者寄贈  
[9558]



29. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
カクテル(V)  
1984(昭和59)頃  
孔版、紙  
17.0×19.9  
作者寄贈  
[9559]



30. 栗田 宏一 KURITA Koichi  
ソイル・ライブラー／和歌山  
2007(平成19)  
和歌山県内の土、ガラスビン  
ガラスビン：  
直径5.4×高さ11.8×108点  
美術館にアートを贈る会寄贈  
[9488]



16. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
仲間(I)  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
29.1×22.9  
作者寄贈  
[9547]



17. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
欲望のワルツ  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
22.0×29.6  
作者寄贈  
[9548]



18. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
夜想曲  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
24.0×21.6  
作者寄贈  
[9549]



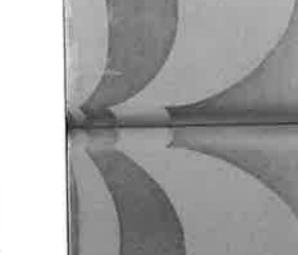
19. 嘉部 弘 KABE Hiroshi  
狂想曲第3番  
1970(昭和45)  
孔版、紙  
28.2×21.6  
作者寄贈  
[9550]



32. 小野 教治 ONO Kyoji  
せきうつ  
1958(昭和33)  
油彩、キャンバス  
131.0×162.0  
小野泰子氏寄贈  
[9568]



33. 小野 教治 ONO Kyoji  
瑠草  
1972(昭和47)頃  
油彩、キャンバス  
130.0×161.0  
小野泰子氏寄贈  
[9571]



34. 小野 教治 ONO Kyoji  
瑠草  
1972(昭和47)頃  
油彩、キャンバス  
46.0×63.5  
小野泰子氏寄贈  
[9567]



35. 小野 教治 ONO Kyoji  
[不詳]  
制作年不詳  
油彩、キャンバス  
144.5×112.0  
小野泰子氏寄贈  
[9570]



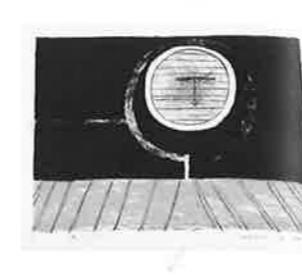
36. 山中 嘉一 YAMANAKA Yoshikazu  
女神  
1958(昭和33)  
リトグラフ、紙  
43.0×26.3  
作者寄贈  
[9502]



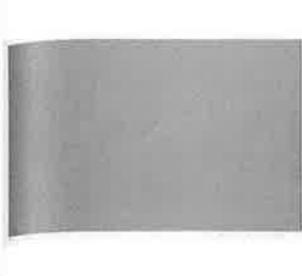
37. 山中 嘉一 YAMANAKA Yoshikazu  
Bird-A  
1958(昭和33)  
リトグラフ、紙  
41.0×26.0  
作者寄贈  
[9498]



38. 山中 嘉一 YAMANAKA Yoshikazu  
Bird-B  
1958(昭和33)  
リトグラフ、紙  
40.0×28.5  
作者寄贈  
[9499]



39. 山中 嘉一 YAMANAKA Yoshikazu  
夜  
1958(昭和33)  
リトグラフ、紙  
30.0×42.0  
作者寄贈  
[9504]



40. 山中 嘉一 YAMANAKA Yoshikazu  
神話  
1958(昭和33)  
リトグラフ、紙  
40.0×26.0  
作者寄贈  
[9503]



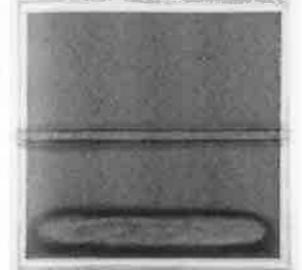
41. 山中 嘬一 YAMANAKA Yoshikazu  
レダ  
1958(昭和33)  
リトグラフ、紙  
27.5×43.5  
作者寄贈  
[9500]



42. 山中 嘬一 YAMANAKA Yoshikazu  
練習曲  
1958(昭和33)  
リトグラフ、紙  
26.5×38.5  
作者寄贈  
[9505]



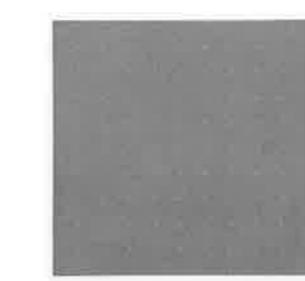
43. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
樂士  
1958(昭和33)  
リトグラフ、紙  
56.5×38.0  
作者寄贈  
[9501]



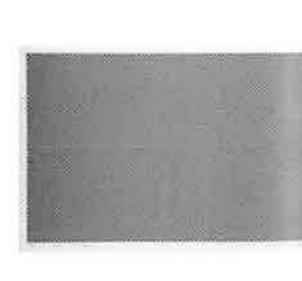
44. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
静物  
1958(昭和33)  
リトグラフ、紙  
43.0×28.0  
作者寄贈  
[9506]



45. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Drop-30  
1973(昭和48)  
シルクスクリーン、紙  
59.0×50.0  
作者寄贈  
[9507]



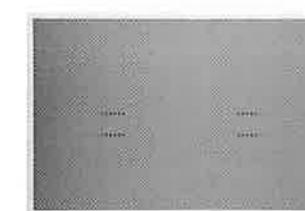
46. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Drop-35  
1974(昭和49)  
シルクスクリーン、紙  
50.0×50.0  
作者寄贈  
[9508]



47. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Drop-77-1-B  
1977(昭和52)  
シルクスクリーン、紙  
44.5×68.5  
作者寄贈  
[9509]



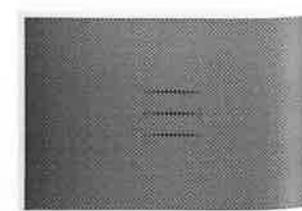
48. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Drop-77-6  
1977(昭和52)  
シルクスクリーン、紙  
44.5×68.6  
作者寄贈  
[9510]



49. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Drop-77-7  
1977(昭和52)  
シルクスクリーン、紙  
44.5×68.5  
作者寄贈  
[9511]



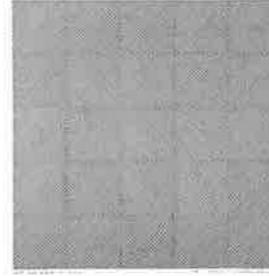
50. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Drop-77-8  
1977(昭和52)  
シルクスクリーン、紙  
55.0×73.0  
作者寄贈  
[9512]



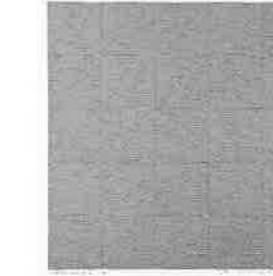
51. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Drop-77-9  
1977(昭和52)  
シルクスクリーン、紙  
44.5×68.5  
作者寄贈  
[9513]



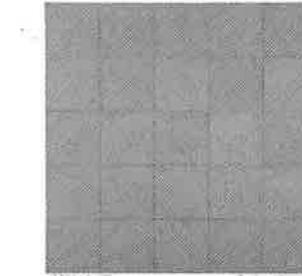
52. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Drop-77-13  
1977(昭和52)  
シルクスクリーン、紙  
44.5×68.5  
作者寄贈  
[9514]



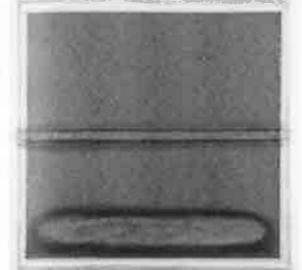
53. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Unit's pink zone-13  
1978(昭和53)  
シルクスクリーン、コラージュ、紙  
49.8×49.8  
作者寄贈  
[9515]



54. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Unit's pink zone-16  
1978(昭和53)  
シルクスクリーン、コラージュ、紙  
50.0×50.0  
作者寄贈  
[9516]



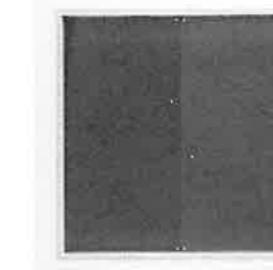
55. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Unit's pink zone-17  
1978(昭和53)  
シルクスクリーン、紙  
72.7×60.6  
作者寄贈  
[9517]



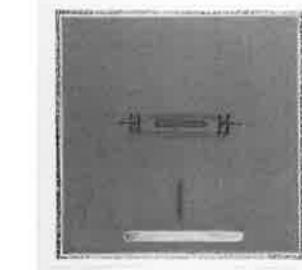
56. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1266  
1994(平成6)  
スクリーンプリント、コラージュ、紙  
62.5×63.5  
作者寄贈  
[9518]



57. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1328 陽炎  
1995(平成7)  
スクリーンプリント、紙  
50.2×50.2  
作者寄贈  
[9520]



58. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1335  
1996(平成8)  
スクリーンプリント、紙  
50.3×50.3  
作者寄贈  
[9521]



59. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1335  
1996(平成8)  
スクリーンプリント、紙  
50.2×50.3  
作者寄贈  
[9521]



60. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1354  
1996(平成8)  
スクリーンプリント、紙  
50.0×50.0  
作者寄贈  
[9522]



61. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1381  
1997(平成9)  
スクリーンプリント、紙  
47.5×47.5  
作者寄贈  
[9523]



62. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1386  
1997(平成9)  
スクリーンプリント、糸、紙  
70.0×70.0  
作者寄贈  
[9524]



63. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1387  
1997(平成9)  
スクリーンプリント、紙  
70.0×70.0  
作者寄贈  
[9525]



64. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1388  
1997(平成9)  
スクリーンプリント、コラージュ、紙  
47.5×49.0  
作者寄贈  
[9526]



65. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1455 Surface-3  
2000(平成12)  
スクリーンプリント、コラージュ、紙  
50.0×50.1  
作者寄贈  
[9527]



66. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1465  
2000(平成12)  
スクリーンプリント、紙  
42.1×42.1  
作者寄贈  
[9528]



67. 山中 嘴一 YAMANAKA Yoshikazu  
Mono-Print-1480  
2000(平成12)  
スクリーンプリント、コラージュ、紙  
47.3×47.3  
作者寄贈  
[9529]







# 関係法規

## ○和歌山県立近代美術館設置及び管理条例

昭和45年10月6日

条例第64号

改正 平成6年3月30日条例第18号

和歌山県立近代美術館設置および管理条例をここに公布する。

和歌山県立近代美術館設置及び管理条例 (平6条例18・改称)

### (設置)

第1条 近代美術に関する資料を収集し、保管し、又は展示して一般公衆の観覧に供するとともに、美術に関する資料の調査、研究等を行い、もって美術文化の向上に資するため、和歌山県立近代美術館(以下「近代美術館」という。)を設置する。

(平6条例18・一部改正)

### (位置)

第2条 近代美術館は、和歌山市吹上一丁目4番14号に置く。

(平6条例18・一部改正)

### (事業)

第3条 近代美術館は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 近代美術に関する作品その他の近代美術に関する資料を収集し、保管し、又は展示して一般公衆の利用に供すること。
- (2) 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、研究会、講習会等の開催及び資料の刊行

(平6条例18・一部改正)

### (使用料)

第4条 近代美術館を使用する者は、和歌山県使用料及び手数料条例(昭和22年和歌山県条例第28号)の定めるところにより、使用料を納めなければならない。

### (委任)

第5条 近代美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

### 付 則

この条例は、昭和45年11月2日から施行する。

附 則 (平成6年3月30日条例第18号)

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

## ○和歌山県立近代美術館管理規則

昭和45年10月22日

教育委員会規則第20号

改正 昭和53年4月1日教育委員会規則第12号

昭和56年5月28日教育委員会規則第7号

昭和63年3月31日教育委員会規則第13号

平成元年3月31日教育委員会規則第7号

平成6年3月31日教育委員会規則第8号  
平成13年3月30日教育委員会規則第11号  
平成17年2月25日教育委員会規則第2号  
平成19年3月30日教育委員会規則第15号

- (1) 館長印、館印その他公印の管守にすること。
- (2) 職員の身分、服務その他人事にすること。
- (3) 文書の收受、発送、編さん及び保存にすること。
- (4) 預算、決算及び会計にすること。
- (5) 近代美術館の施設、設備及び物品の管理にすること。
- (6) その他学芸課の主管に属しないこと。

3 教育普及課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 美術に関する知識の向上及び普及並びに美術の振興にすること。
- (2) 学校等の教育、学術又は文化に関する諸施設に対する助言及び支援並びに当該施設との協力にすること。
- (3) 国内外の美術館等関係諸団体との連絡及び協力にすること。
- (4) 近代美術に関する展覧会、講演会及び研究会等の立案、調整及び実施にすること。
- (5) 美術館活動(美術品等の展示及び収集並びに美術の普及活動等をはじめとして広く美術館において行う諸活動をいう。)に係る調査研究にすること。

4 学芸課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、管理及び保存にすること。
- (2) 近代美術に関する展覧会の立案、調整及び実施にすること。
- (3) 近代美術に関する調査研究及び資料の刊行にすること。
- (4) 近代美術館協議会にすること。

### (入館の拒絶、制限及び退館命令)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を拒絶し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 伝染性疾患のある者
- (2) 陳列品を汚損し、又は近代美術館の施設及び設備をき損するおそれのある物品を所持している者
- (3) 館内の秩序を乱すと認められる者
- (4) その他館長において近代美術館の管理上入館を不適当と認めた者

2 館長は、近代美術館の管理上必要があると認めるときは、入館に制限を加えることができる。

### (損害賠償の義務)

第7条 入館者は、その責めに帰すべき事由により陳列品を汚損し、近代美術館の施設及び設備をき損し、又は滅失したときは、その損害の賠償をしなければならない。

### (委任)

第8条 この規則に定めるものほか、近代美術館の管理に関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

### 付 則

この規則は、昭和45年11月2日から施行する。

附 則 (昭和53年4月1日教育委員会規則第12号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和56年5月28日教育委員会規則第7号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和63年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則 (平成元年3月31日教育委員会規則第7号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則 (平成6年3月31日教育委員会規則第8号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年3月30日教育委員会規則第11号)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年2月25日教育委員会規則第2号)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年3月30日教育委員会規則第15号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

## ○和歌山県博物館協議会条例

昭和57年3月29日

条例第11号

和歌山県博物館協議会条例をここに公布する。

## 和歌山県博物館協議会条例

### (設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条の規定に基づき、次の表の左欄に掲げる博物館にそれぞれ当該右欄に掲げる博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

博物館の名称	協議会の名称
和歌山県立近代美術館	和歌山県立近代美術館協議会
和歌山県立博物館	和歌山県立博物館協議会
和歌山県立紀伊風土記の丘	和歌山県立紀伊風土記の丘協議会
和歌山県立自然博物館	和歌山県立自然博物館協議会

### (委員の定数)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、15人以内とする。

### (任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

### (会長等)

第4条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

- 3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。  
4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

- 第5条 協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。  
2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。  
3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(小委員会及び部会)

- 第6条 協議会は、小委員会又は部会を置くことができる。  
2 小委員会に委員長を、部会に部会長を置く。  
3 委員長及び部会長は、委員のうちから会長が指名する。  
4 小委員会又は部会に属する委員は、会長が指名する。

(庶務)

- 第7条 協議会の庶務は、当該博物館において処理する。

(委任)

- 第8条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

- この条例は、昭和57年4月1日から施行する。

○和歌山県立近代美術館美術品貸付規則

昭和46年10月12日

教育委員会規則第26号

改正 昭和56年8月29日教育委員会規則第15号

平成元年3月31日教育委員会規則第8号

和歌山県立近代美術館美術品貸付規則を次のように定める。

和歌山県立近代美術館美術品貸付規則

(目的)

- 第1条 この規則は、和歌山県立近代美術館が所蔵する美術品(以下「美術品」という。)の貸付けに関し必要な事項を定めることを目的とする。

(貸付)

- 第2条 和歌山県立近代美術館長(以下「館長」という。)は、その目的が公の性質をもち、かつ、美術文化の普及上適当と認めた場合に、次項に規定する者に対して美術品を貸し付けることができるものとする。

- 2 美術品の貸付けを受けることのできる者は、国並びに地方公共団体及び公益法人その他これらに準ずる団体とする。

(申請手続)

- 第3条 美術品の貸付けを受けようとする者は、次に掲げる事項を記

載した借受申請書を館長に提出しなければならない。

- (1) 申請者の氏名又は名称及び住所
- (2) 借り受けようとする美術品の名称及び数量
- (3) 使用目的
- (4) 陳列等のための施設の名称及びその場所並びに施設の概要
- (5) 借受期間
- (6) 借受期間における保管及び管理の方法
- (7) その他参考となる事項

(貸付承認)

- 第4条 館長は、美術品の貸付けを承認したときは、美術品貸付承認通知書(別記様式)を申請者に交付する。

(貸付期間)

- 第5条 美術品の貸付期間は、通常2月以内(以下「1期間」という。)とする。ただし、館長が必要と認めたときは、貸付期間を更新し、又は延長することができる。

(借受書等)

- 第6条 美術品の貸付承認を受けた者は、次に掲げる事項を記載した借受書を館長に提出しなければならない。

- (1) 借り受ける美術品の名称及び数量
- (2) 借受期間
- (3) 返納期日
- (4) 返納場所
- (5) 貸付条件に従う旨

2 貸付承認をした美術品の引渡しは、前項の借受書の提出があったとき、これを行う。

3 館長は、美術品が返還されたときは、これと引換えに返還を受けた旨の受領書を交付するものとする。

(遵守事項等)

- 第7条 貸付承認をした美術品の荷造り及び輸送並びに保管、返納等に要する費用は、借受人の負担とする。

2 貸付期間中の美術品の保管及び管理は、借受人の責任とし、亡失、汚損又は損傷のあったときは、賠償の責めを負うものとする。

3 美術品の借受人は、当該美術品を借り受けた目的以外に使用してはならない。

(貸付料)

- 第8条 美術品の貸付料は、1点につき1期間3,090円とし、第5条ただし書の貸付期間の延長の場合にあっては、1月以内の延長期間については1,540円とし、1月を超える延長期間については3,090円とする。

2 特別の事情がある場合においては、貸付料を増減し、又は免除することがある。

3 既納の貸付料は、これを返還しない。

(貸付けの取消し)

- 第9条 館長は、美術品の貸付けを受けた者が、この規則及び貸付条件を守らないときは、その承認を取り消し、当該美術品の返還を求めることができる。

(補則)

- 第10条 この規則に定めるもののほか、美術品の貸付けに関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

付 則

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 和歌山県立近代美術館美術品貸付規則(昭和42年和歌山県教育委員会規則第22号)は、廃止する。

附 則 (昭和56年8月29日教育委員会規則第15号)

この規則は、昭和56年9月1日から施行する。

附 則 (平成元年3月31日教育委員会規則第8号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

別記様式(第4条関係)

番号 年 月 日
美術品貸付承認書
殿
和歌山県立近代美術館長
年 月 日付で承認申請のあった当館所蔵の美術品の貸付けについては、下記によって承認する。
記
1 貸 付 品 種 別 作者名 題 名 材 質 形 狀 製 作 年 2 貸 付 期 間 年 月 日 か ら 年 月 日 ま で 3 貸 付 料 金 円 上記貸付料は、美術品借り受けのとき、又はその日までに県指定金融機関へ払い込むこと。 4 美術品の輸送の際の取扱い及び保管管理については、館長の指示に従い、十分注意するとともに、貸付中のいっさいの責任を借受者において負うものとする。 5 美術品は、当館係員立合のうえ借受書と引換えに引き渡すものとする。 6 その他和歌山県立近代美術館美術品貸付規則の各条項を遵守することとも館長の指示に従うこと。

備考 この承認書には、和歌山県立近代美術館美術品貸付規則を添付すること。

○和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程

昭和46年10月12日

教育委員会告示第12号

改正 平成6年3月31日教育委員会告示第1号

和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程を次のように定める。

和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程

(趣旨)

- 第1条 この規程は、和歌山県立近代美術館(以下「美術館」という。)における美術作品の寄託に関し必要な事項を定めるものとする。

(受託)

- 第2条 美術作品の所有者(以下「所有者」という。)が展示保存又は調査研究の目的をもって、美術作品の保管の申入れがあったときは、この規程の定めるところにより、美術館はこれを無償で受託するものとする。

(寄託)

- 第3条 所有者が、美術作品を寄託しようとするときは、別記第1号様式による保管依頼書を提出し、館長の承認を受けなければならない。

(受け入れ及び返還)

- 第4条 館長は、美術作品を受領したときは、所有者に、別記第2号様式による受託証書を交付するものとする。

- 2 寄託品の返還を受けようとする者は、原則として返還を受けようとする日の1月前に別記第3号様式による返還請求書を館長に提出しなければならない。

- 3 寄託品は、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。
- 4 寄託品の返還を受けようとする者が、所有者の代理人であるときは、受託証書に、委任状その他代理人であることを証する書類を添えなければならない。

(寄託期間及び期間の更新)

- 第5条 寄託期間は、3年とする。ただし、館長が必要と認めたときは、所有者の承諾を得てこの期間を短縮又は更新することがある。寄託期間を経過後寄託者から返還の請求がない場合は寄託期間の更新をしたものとみなす。

- 2 寄託期間の更新をするときは、受託証書の書換えを行うものとする。

(所有者の変更等)

- 第6条 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったときは、または所有者の氏名、名称若しくは住所等に変更があったときは、その所有者(所有者変更の場合は、新所有者)は、所有権の移転その他氏名、名称等の変更を証する書類を受託証書に添えて、館長に届け出、受託証書の書換えを受けなければならない。

(受託証書の再交付)

- 第7条 受託証書を失し、又は著しく破損したときは、所有者は、これらを証明するに足る書類(破損の場合は、その受託証書)を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

(作品輸送経費の負担)

- 第8条 所有者は、寄託品の搬入又は返還に要する荷造り及び運搬の経費を負担しなければならない。ただし、館長において特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

## 建築概要

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか美術品の寄託に関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

### 付 則

この規程は、告示の日から施行する。

附 則 (平成6年3月31日教育委員会告示第1号)

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

別記第1号様式(第3条関係)

美術作品保管依頼書	
種 別	
作 品 名	
作 者 名	
製 作 年 月 日	
附 属 品	
作 品 の 所 在 地	
寄 託 期 間	年 月 日 から 年 月 日 まで

上記作品について下記事項承諾のうえ、寄託を申し込みます。

年 月 日  
住所 氏名 ㊞

和歌山県立近代美術館長 殿  
記

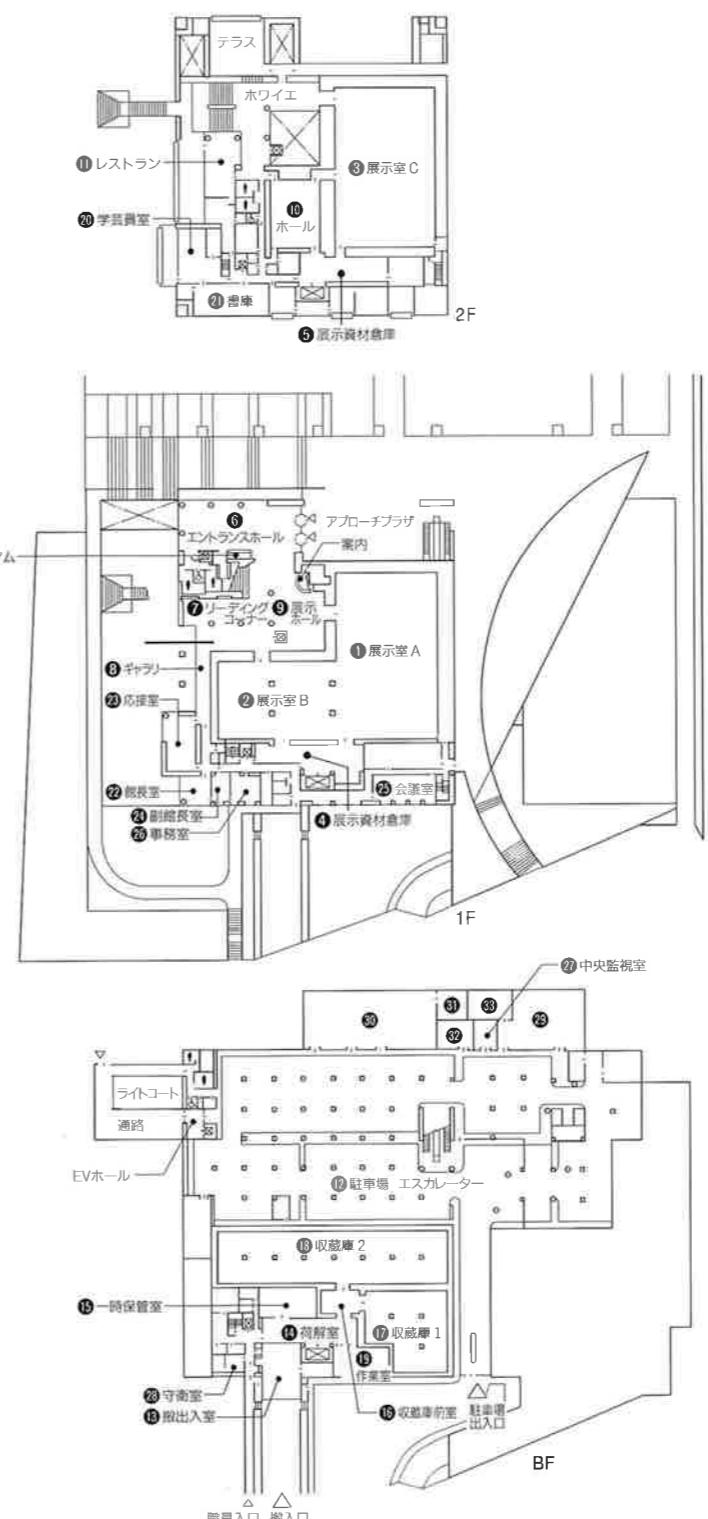
- 寄託期間経過後、私から返還請求をしない場合は、この期間の更新に同意したものとします。
- 寄託した美術作品が天災その他の避けられない事故によって汚損又は失った場合における補償の請求はいたしません。
- 展示保存又は調査研究に資するため写真撮影することに同意します。

別記第2号様式(第4条関係)

文書番号	年 月 日
受託証書	
作品名	
附属品	
寄託期間	年 月 日 から 年 月 日 まで
上記作品の保管を和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程(昭和46年和歌山県教育委員会告示第12号)により受託しました。	
年 月 日	
住所	和歌山県立近代美術館長 団
氏名	様

別記第3号様式(第4条関係)

返還請求書	
作品名	
附属品	
寄託期間	年 月 日 から 年 月 日 まで
上記の作品の返還を和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程(昭和46年和歌山県教育委員会告示第12号)により請求します。	
年 月 日	
住所	
氏名	㊞
和歌山県立近代美術館長 殿	



### 部門別面積表

部門	室名	面積(m <sup>2</sup> )
<b>展示部門</b>		
①	展示室A	1,057.0
②	展示室B	486.1
③	展示室C	1,038.6
④	展示資材倉庫(1F)	136.2
⑤	展示資材倉庫(2F)	121.5
	(小計)	2,839.4
<b>サービス部門</b>		
⑥	エントランスホール	402.2
⑦	リーディングコーナー	217.8
⑧	ギャラリー	46.9
⑨	展示ホール	134.0
⑩	ホール	181.5
	ホール前室、映写室、控室A、倉庫	74.6
⑪	レストラン	105.1
	厨房	62.0
	テラス	217.9
	化粧室	181.9
⑫	駐車場	2,480.1
	EVホール、廊下、階段、その他	1,670.7
	(小計)	5,774.7
<b>収蔵部門</b>		
⑬	搬出入室	108.4
⑭	荷解室	130.0
⑮	一時保管室	81.0
⑯	収蔵庫前室	61.4
⑰	収蔵庫1	342.5
⑱	収蔵庫2	685.6
⑲	作業室	82.0
	(小計)	1,490.9
<b>調査部門</b>		
⑳	学芸員室、倉庫	123.2
㉑	書庫	113.1
	(小計)	236.3
<b>管理部門</b>		
㉒	館長室	
㉓	応接室	
㉔	副館長室	
㉕	会議室	
㉖	事務室	
㉗	中央監視室	
㉘	守衛室	
	控室B	
	控室C	
	控室D	
	更衣室	
	救護室	
㉙	電気室	212.4
㉚	マシンルーム	364.9
㉛	消火ポンプ室	38.7
㉜	ハロンポンベ室	51.2
㉝	発電機室	58.1
	空調機械室	295.5
	倉庫、その他	31.1
	(小計)	1,496.6
	合計	11,837.9
<b>階数</b>		
2 F		各階面積 2,916.8
1 F		3,436.8
B F		5,484.3
合計	(延床面積)	11,837.9

## 建築概要

所在地	和歌山市吹上一丁目4番14号
敷地面積	23,356.78m <sup>2</sup>
監理	和歌山県土木部営繕課
設計監理	株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
施工	竹中・清水・戸田特定建築工事共同企業体 （きんでん・伊藤電気特定電気設備工事共同企業体 日立プラント・長谷川冷機特定機械設備工事共同企業体）
総工費	137億8086万円 〔総事業費 192億633万1千円（用地費含む）〕
工事期間	1991年10月～1994年3月

## 建物概要

構造	RC造（鉄筋コンクリート構造） 地上2階地下1階建
建築面積	7,087.17m <sup>2</sup> （美術館部分 4,500.62m <sup>2</sup> 博物館部分 2,586.55m <sup>2</sup> ）
延床面積	18,704.50m <sup>2</sup> （駐車場3,460.40m <sup>2</sup> を含む） （美術館部分11,837.90m <sup>2</sup> 博物館部分6,866.60m <sup>2</sup> ）
仕上	外装 外壁 磁器質タイル、アルミパネルアルマイト仕上、 アルミカーテンウォール 屋上 アスファルト防水の上コンクリート押え 庇 フッ素ステンレス鋼板、アルミパネル アルマイト仕上

## 設備概要

電気設備	
受変電設備	3φ3W6600V 60Hz 変圧器 1φ600KVA（うち美術館300KVA 博物館300KVA） 3φ1550KVA（うち美術館900KVA 博物館650KVA）
自家発電設備	ディーゼル機関 4サイクル 440PS 1800rpm 3φ3W6600V 375KVA
蓄電池設備	キューピタル式直流電源装置 容量 300AH

## 空調設備

熱源設備	空気熱源熱回収型スクリュー式ヒートポンプ冷凍機 165RT+110RT 蓄熱槽 1560m <sup>3</sup>
排煙設備	自然排煙+機械排煙6系統（うち美術館4系統 博物館2系統）
衛生設備	給水設備 受水槽 上水10m <sup>3</sup> 、雑用水29m <sup>3</sup> 受水方式 加圧給水ポンプ方式
排水設備	汚水・雨水分流式（公共下水道へ放流）
消火設備	ハロンガス消火（収蔵部門各室・展示部門各室・書庫） ／屋内消火栓／スプリンクラー／消火器／泡消火（駐車場）

自動火災報知設備	（館内守衛室にて集中管理）
煙感知器	光電スポット型 美術館224台 博物館155台
熱感知機	差動スポット型 美術館105台 博物館 74台
	定温スポット型 美術館 14台 博物館 13台

## 防災・防犯設備

（館内守衛室にて集中管理）	
受信盤	複合GR型 504回線
ITV監視装置、防犯アンプ	（360W）
監視カメラ	美術館33台（うち展示室14台） 博物館19台（うち展示室8台）

## 展示・保存環境

	面積	床材	天井高
展示部門	展示室A 1,057.0m <sup>2</sup> ケース L13,706×D1,200×H3,372 + L31,070×D1,200×H3,372 (mm)	ナラフローリング	5m
	展示室B 486.1m <sup>2</sup> 展示室C 1,038.6m <sup>2</sup>	同上	4m
	ケース L25,211×D1,200×H3,372 (mm)	5m	
1F展示資材倉庫	136.2m <sup>2</sup>	ビニアスタイル	4m
2F展示資材倉庫	121.5m <sup>2</sup>	同上	4m
収蔵部門	収蔵庫1（立体） 342.5m <sup>2</sup> 収蔵庫2（平面） 385.6m <sup>2</sup>	耐水合板下地 ブナフローリング	4m
	前室 61.4m <sup>2</sup>	同上	4m
	一時保管室 81.0m <sup>2</sup>	モザイクパーケット	4m
	作業室 82.0m <sup>2</sup>	ビニアスタイル	5.8m
	荷解室 130.0m <sup>2</sup>	同上	5.8m
	搬出入口 108.4m <sup>2</sup>	モルタル金ゴテ／ エポキシ系塗床	4.8m
展示照明	ハロゲンダウンライト／蛍光灯（着脱式）／スポットライト（着脱式） すべて紫外線防止、高演色タイプ、無段階調光可能		
空調	展示室 2系統 収蔵庫 2系統 展示室 設定温度 夏期25°C／冬期22°C 設定湿度 通年55%		
	収蔵庫 設定温度 通年22°C 設定湿度 通年55%		
作品専用昇降機	油圧式・30m/min・最大積載量3.0トン H3,000×W5,000×D2,500 (mm)		

## 案内

### 利用案内

開館時間	9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日	毎週月曜日（祝日のときはその翌日）
	年末年始（12月29日～1月3日）
展示替え期間	
駐車場	有料（90台収容）

### 交通案内

JR和歌山駅又は南海電鉄和歌山市駅からバスで約10分、  
「県庁前」下車、徒歩2分（和歌山城向かい）



**2010(平成22)年度 和歌山県立近代美術館年報**

編集・発行 和歌山県立近代美術館 ©2012  
〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1-4-14  
TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337  
2012(平成24)年3月30日発行  
印 刷 中和印刷紙器株式会社



THE MUSEUM OF MODERN ART, WAKAYAMA